VVAULT® AUDIT

インストールマニュアル

Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5

1 インストール 5

2 ライセンスの登録 23

3 プロキシサーバーの設定 43

4 レポートメールの設定 47

5 データテーブルの管理 53

6 統合管理 59

7 高度な設定 67

はじめに

本文書のご利用にあたって

- 本文書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き禁止されています。
- 本文書で使用している情報及び画像は本文書執筆時点のもので、最新版の製品および製品サイトと文言やデザイン等が異なる場合があります。
- 本文書内の社名、製品名は各社の商標又は登録商標です。

目次

1 インストール 5

1-1 インストール前の準備 6

1-2 インストールの手順 10

1-3 アップデートの手順 15

1-4 アーカイブファイルを使用したインストールの手順 17

1-5 アンインストールの手順 20

2 ライセンスの登録 23

2-1 ライセンスについて 24

2-2 各部の名称と役割 25

2-3 ライセンスコードでの登録 27

2-4 オンラインでの登録 30

2-5 オフラインでの登録 33

2-6 Express Passライセンスのアクティベーション 39

3 プロキシサーバーの設定 43

3-1 プロキシサーバー設定について 44

3-2 各部の名称と役割 45

4 レポートメールの設定 47

4-1 レポートメールとは 48

4-2 各部の名称と役割 49

5 データテーブルの管理 53

5-1 データテーブルの管理とは 54

5-2 各部の名称と役割 55

6 統合管理 59

6-1 統合管理について 60

6-2 各部の名称と役割 61

6-3 管理対象サーバーの追加 64

7 高度な設定 67

7-1 高度な設定について 68

7-2 各部の名称と役割 70

1 インストール

Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5

1-1 インストール前の準備——6

1-2 インストールの手順——10

1-3 アップデートの手順——15

1-4 アーカイブファイルを使用したインストールの手順——17

1-5 アンインストールの手順——20

1-1
インストール前の準備

動作環境の確認

CPU	Intel x86/x64 互換プロセッサ（Xeon E3 以上推奨）
対応OS	SERVER OS Windows Server 2022（64bit） Windows Server 2019（64bit） Windows Server 2016（64bit） Windows Storage Server 2016（64bit） ※ Windows Server IoT 2022 for Storage／Windows Server IoT 2019 for Storage搭載のサーバーやNASは、CPU、メモリ、ディスク容量などが、本製品の動作要件を満たさないものもございますので、ご注意ください（2022年10月現在）。
メモリ	2GB以上（4GB 以上推奨）
ディスク容量	システム領域：1GB以上の空き容量 インストール領域：500MB以上の空き容量 ※DBデータ、アーカイブ保存先についてはログデータの保存量によるが最低1GB以上の空き容量
必要ソフトウェア	Microsoft .NET Framework 4.5
対応環境	ドメイン（ドメインコントローラー、ドメインメンバー）／ワークグループ

データの保存先について

本製品で使用するデータは下記の４つがあります。以下のワンポイントを参考に適切な保存先をご指定ください。

●VVAULT AUDIT プログラムファイル保存先

本製品を構成するデータ群です。インストーラーのデフォルト設定では”C:¥Program Files¥VVAULT AUDIT”に保存されます。

●VVAULT AUDIT DBデータ保存先

監査ログを保存するデータ領域です。ここに格納されたデータが「アクティブデータ」として各種検索の対象となります。

●VVAULT AUDIT アーカイブ保存先

アクティブデータを圧縮しファイルとして保存する領域です。（アーカイブ保存先設定時のみ）

●VVAULT AUDIT 一時ファイル保存先

DB登録前の監査ログデータが一時ファイルとして生成される領域です。これらのファイルはDB登録後に順次削除されていきますが、念のため十分に空き容量のあるディスクを指定してください。

ワンポイント

データベースおよびアーカイブの保存先を設計する際、目安値として参考にお考えください。

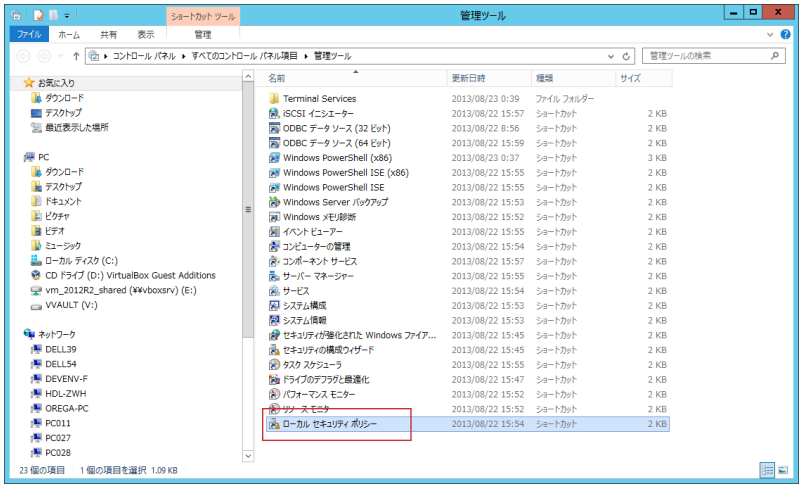
ユーザー数	種類	1週間の想定データ量	1年間（52週）の想定データ量
100	DBデータサイズ	21GB	1092GB
	アーカイブサイズ	360MB	18.6GB
1000	DBデータサイズ	210GB	10.8TB
	アーカイブサイズ	3.6GB	186GB

Windowsの監査設定について

本製品を利用するにはWindowsの監査設定が有効になっている必要があります。無効の場合は以下の手順で有効化してください。

手順解説

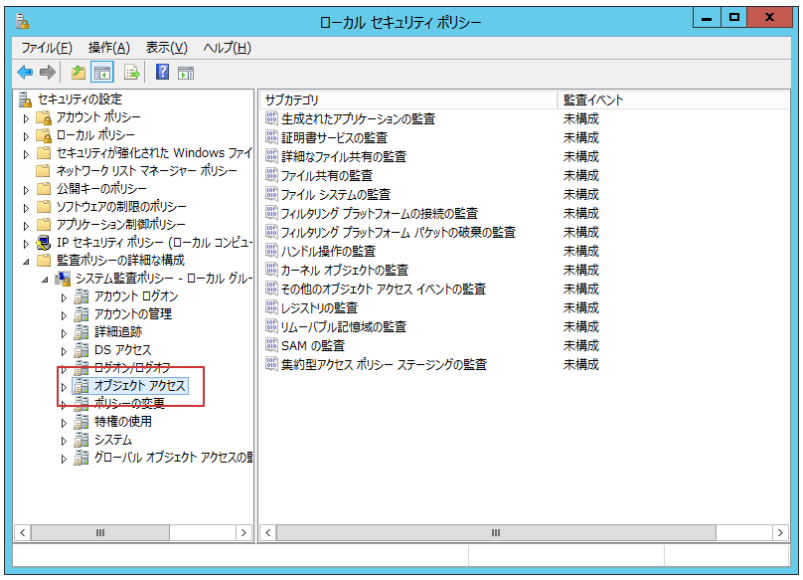
① コントロールパネルから「管理ツール」を開き、「ローカルセキュリティポリシー」をダブルクリックします。



② 左ツリーにある「監査ポリシーの詳細な構成>システム監査ポリシーから以下の2つを有効にします。

・オブジェクトアクセス ＞ 詳細なファイル共有の監査（「成功」と「失敗」の両方を有効にする。）

・ログオン／ログオフ ＞ ログオンの監査（「成功」を有効にする。）

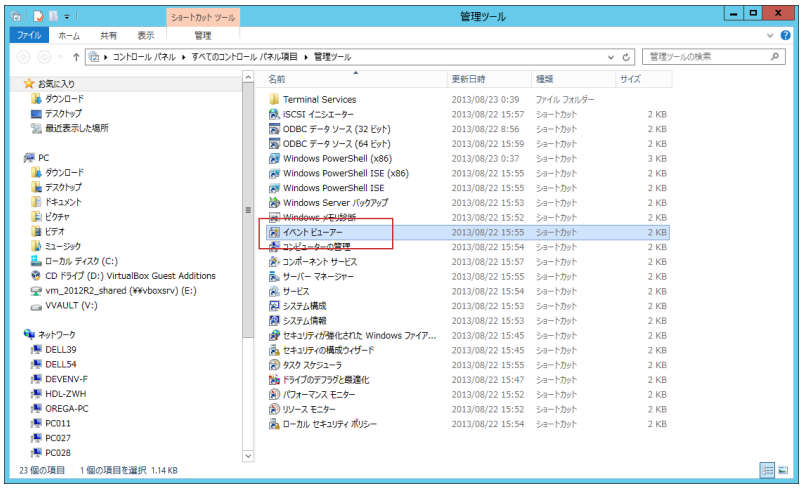


Windowsイベントログ設定について

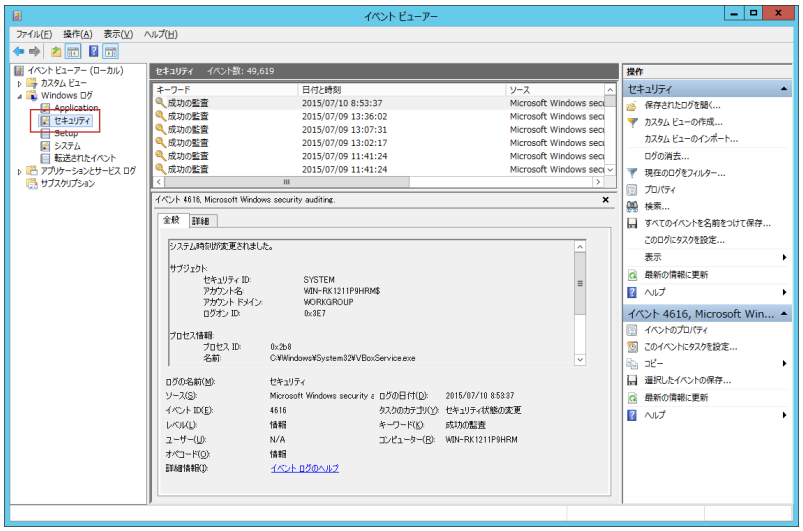
本製品は、Windowsイベントログを読み込んでデータベースへ登録する処理を一分間隔で行っております。
Windowsの初期設定では、このイベントログが20MBまでしか記録できないようになっており、もし、この一分の間に20MB以上のイベントログが記録されるような場合は、ログはローテートされ、データベースに登録できないイベントが発生してしまいます。
上記を回避するため、VVAULT AUDITでは、このイベントログのサイズを最低1GB以上に設定してもらうことを推奨しております。
（ファイルサーバーの利用規模に応じて充分大きな値を設定してください）
またイベントログが上記サイズに達した際の挙動についても、正しくローテートされるよう「イベントを上書きしない（ログは手動で消去）」以外を設定してください。

手順解説

① コントロールパネルから「管理ツール」を開き、「イベントビューアー」をダブルクリックします。

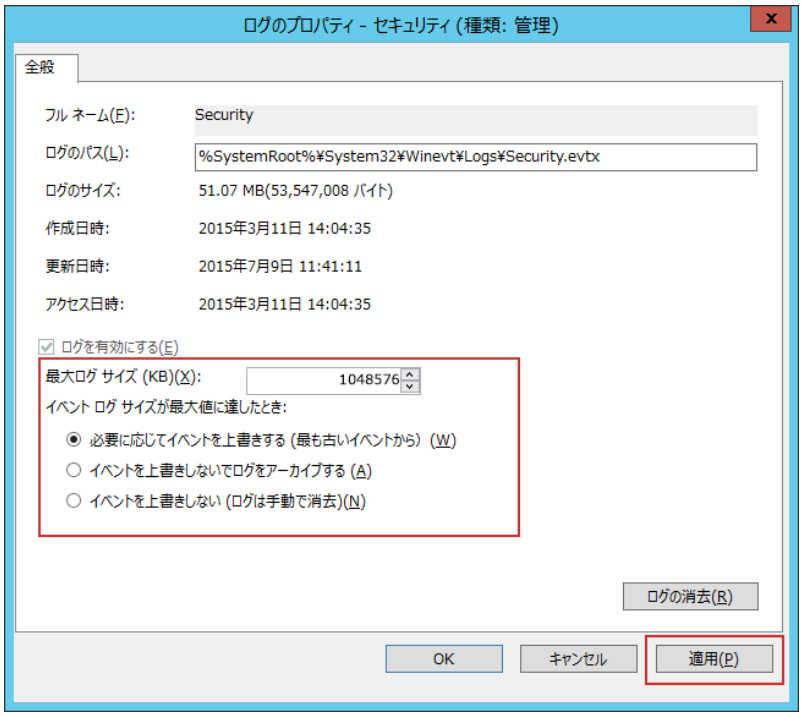


② 左ツリーにある「Windowsログ ＞ セキュリティ」を右クリックしてプロパティを開きます。



手順解説

③ 最大ログサイズに1GB（1048576）以上を入力し、「イベントを上書きしない（ログは手動で消去）」以外を選択して「適用」ボタンをクリックします。



⚠ ご注意

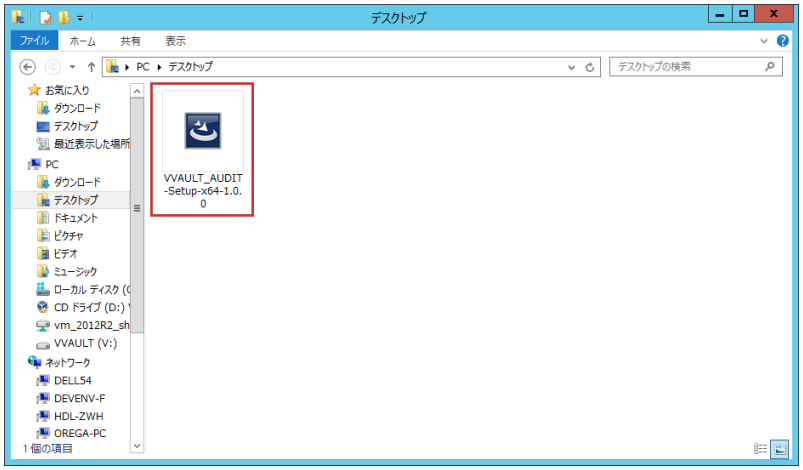
イベントログのサイズは運用環境に合わせた最適な数値を設定してください。
「イベントを上書きしない（ログは手動で消去）」を設定した場合、ログが指定サイズになると、それ以上のイベントログは記録されないため、VVAULT AUDITのデータベースに登録できません。

1-2
インストールの手順

本製品のインストーラーを製品サイト（http://vvault.jp/download/）からダウンロードし、実行してください。

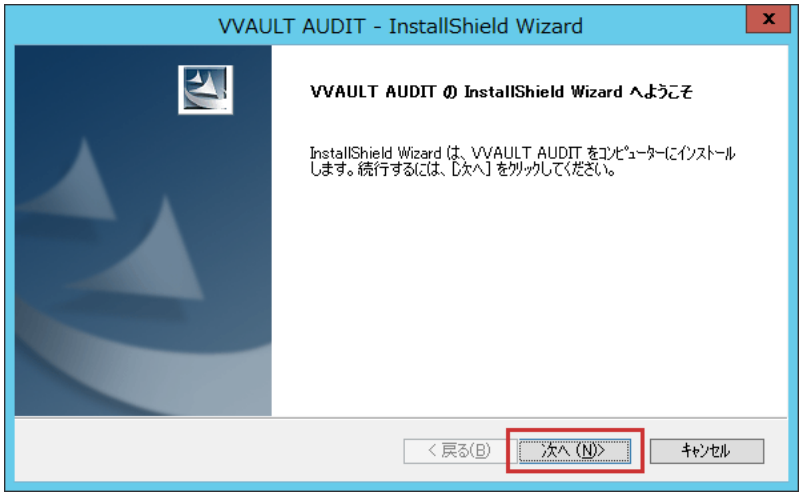
手順解説

① 本製品の最新版のインストーラーを実行します。



> ⚠ ご注意
> UACが有効の場合、インストーラーは管理者権限で実行してください。またドメインメンバーのコンピューターにインストールする場合は、ローカルの管理者アカウントでログインしてから実行してください。

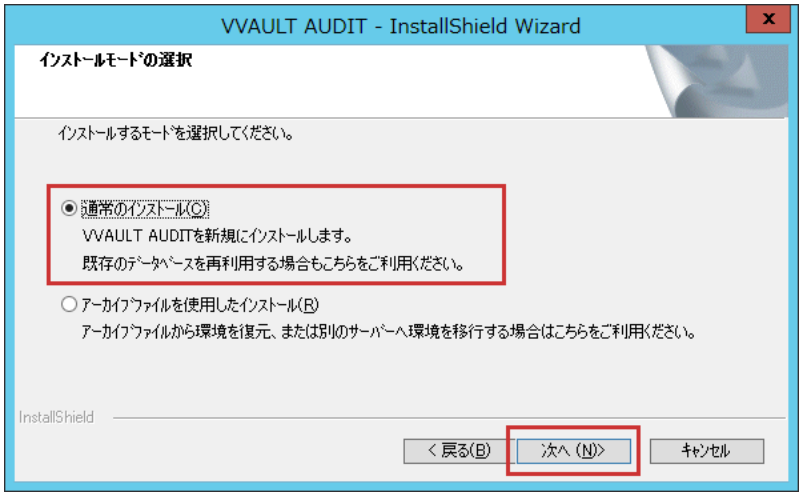
② インストーラーのウィザード開始画面にて「次へ」ボタンをクリックします。



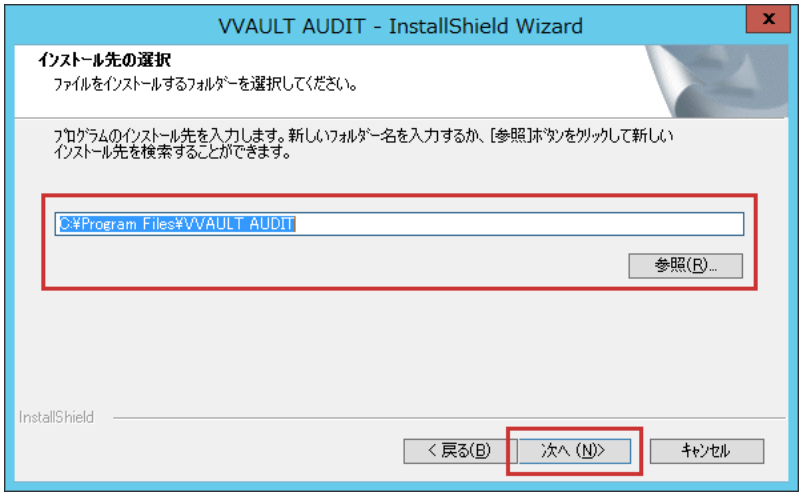
手順解説

③ 使用許諾契約を確認後、「使用許諾契約の全条項に同意します（A)」を選択し「次へ」ボタンをクリックします。

④ インストールのモード選択画面にて「通常のインストール」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



⑤ プログラムのインストール先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。

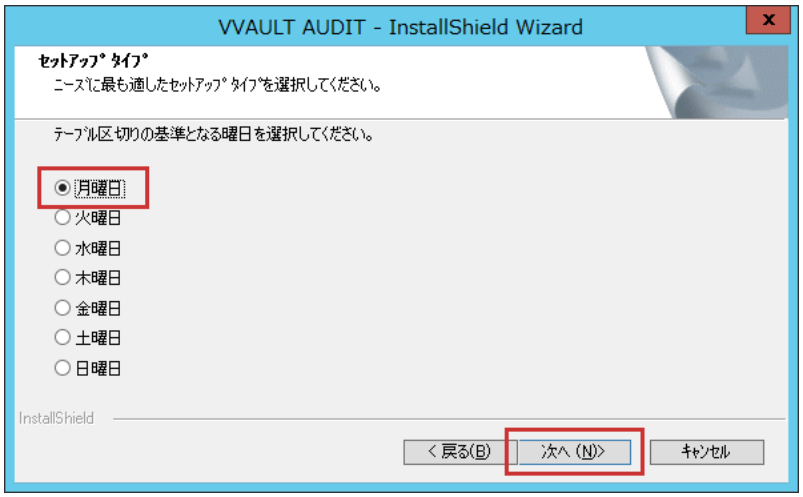


⚠ ご注意

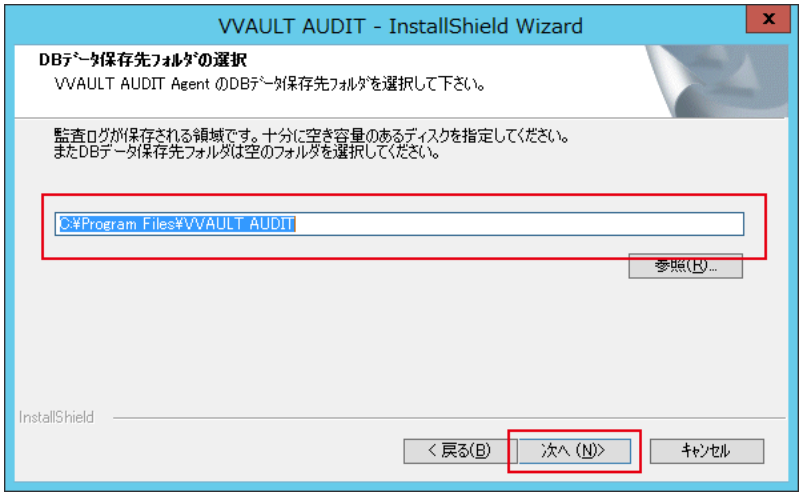
ここにはDB登録前の監査ログデータが一時ファイルとして生成されます。これらのファイルはDB登録後に順次削除されていきますが、
念のため十分に空き容量のあるディスクを指定してください。

手順解説

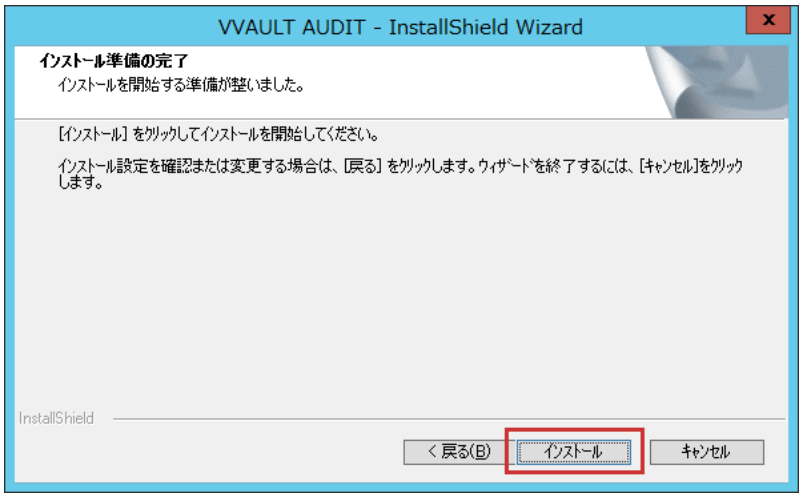
⑦ データベースに保存されるテーブルデータの区切りの基準日を選択し「次へ」ボタンをクリックします。



⑥ DBデータ保存先フォルダのパスを入力し「次へ」ボタンをクリックします。



⑧「インストール」ボタンをクリックします。



ワンポイント

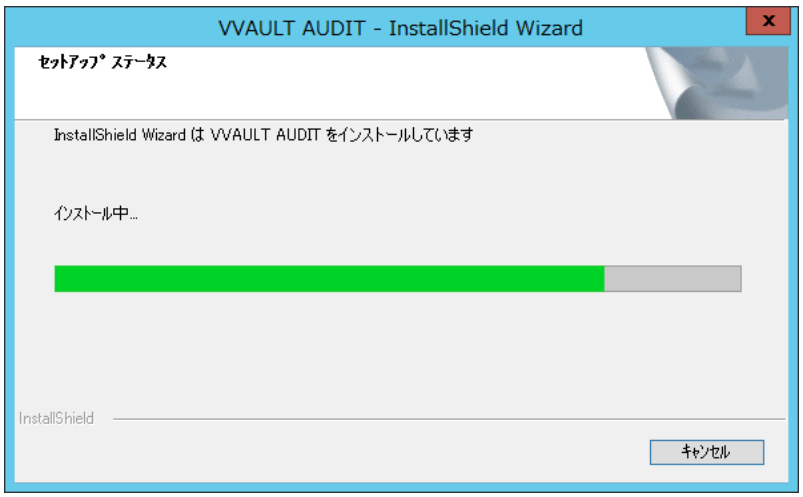
過去に利用していたDBデータ（同一バージョンのみ）を指定し、再利用することも可能です。

⚠ ご注意

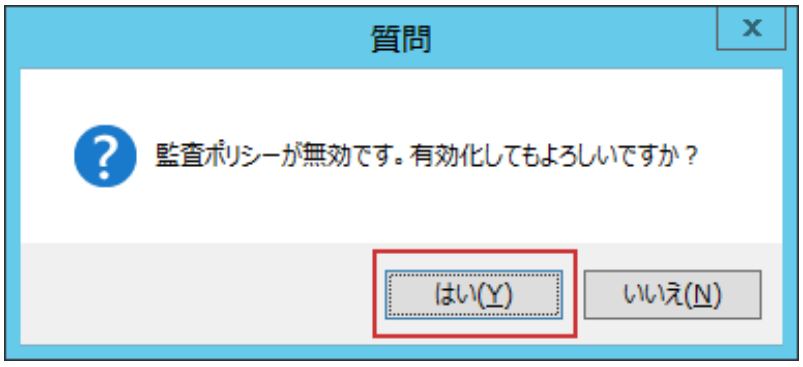
データベースのサイズは、監査ログを保存する期間によって変動します。「(P.6)」を参考に、ご利用の環境に適した十分に空き容量のあるディスクを指定してください。

手順解説

⑨ インストールが開始されます。



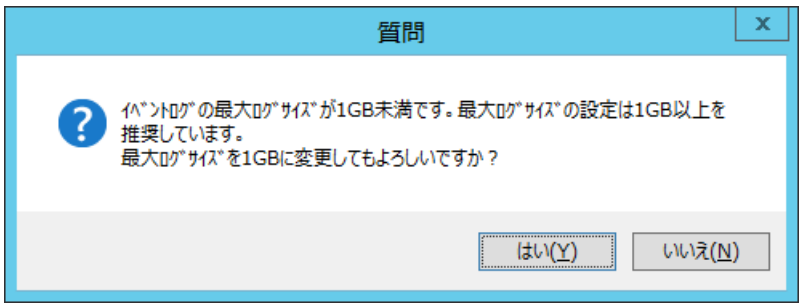
⑩ Windowsの監査設定が有効でない場合、以下のダイアログが表示されます。「はい」をクリックしてください。



ワンポイント

VVAULT AUDITはセキュリティ監査ログを読み込むため、監査設定が有効になっている必要があります。Windowsの監査設定を手動で設定したい場合は、「1-1 インストール前の準備（P.6）」の「 Windowsの監査設定について」を参照してください。

⑪ イベントログの最大サイズ設定が1GB未満の場合、以下のダイアログが表示されます。「はい」をクリックしてください。

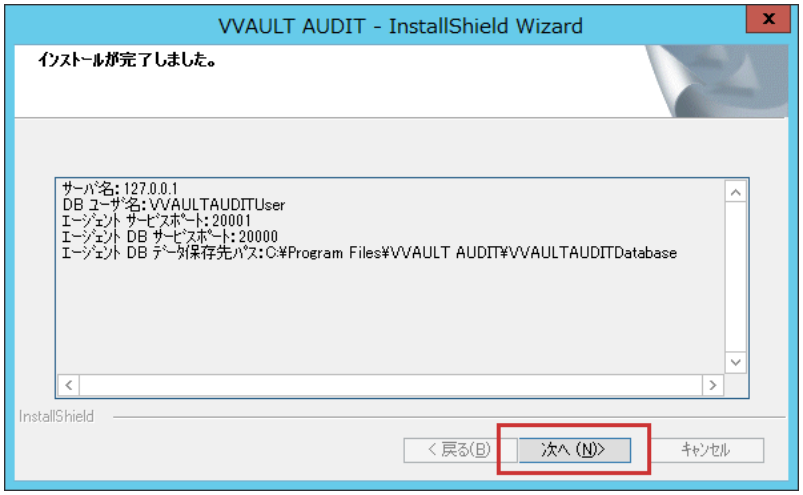


ワンポイント

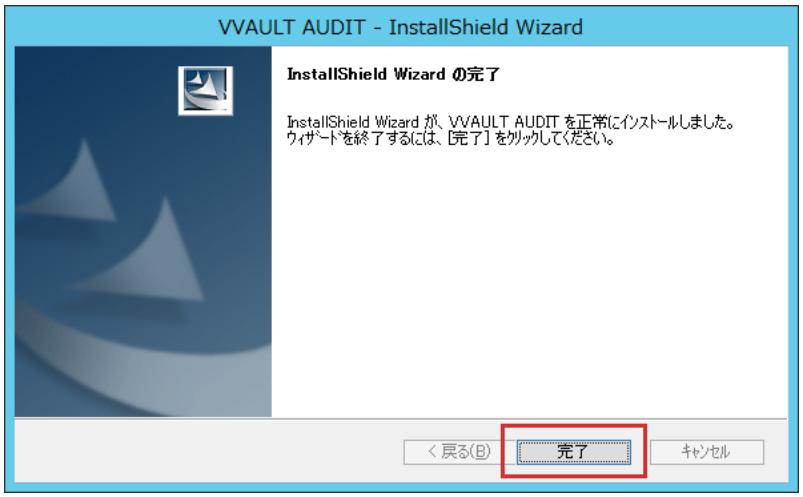
イベントログの設定についての詳細は、「1-1 インストール前の準備（P.6）」の「 Windowsイベントログ設定について」を参照してください。

手順解説

⑫ 各種設定状況が表示されるので「次へ」ボタンをクリックします。



⑬「完了」ボタンをクリックするとインストールが完了します。



VAビューアーの起動

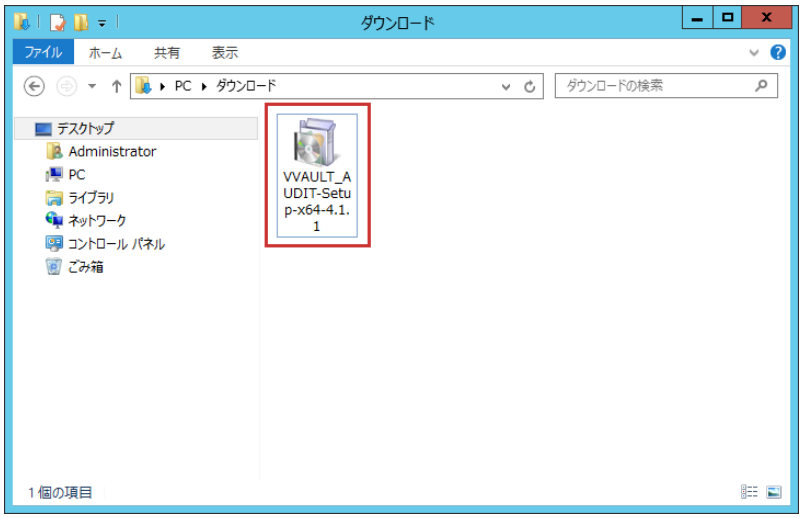
ライセンスの登録を含むVVAULT AUDITの各種操作はVAビューアーから実行することができます。
VAビューアーの使用方法は「**ユーザーズマニュアル**」を参照してください。

1-3
アップデートの手順

本製品をアップデートするには、製品サイトから最新版のインストーラーをダウンロードし、実行してください。

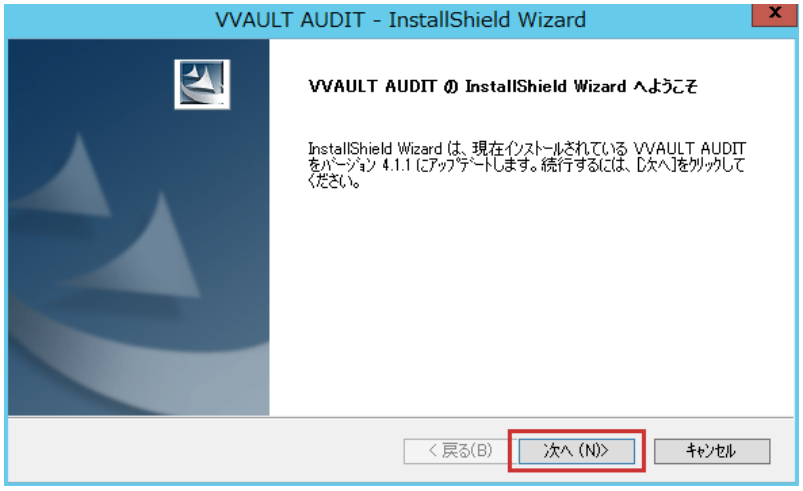
手順解説

① 本製品の最新版のインストーラーを実行します。



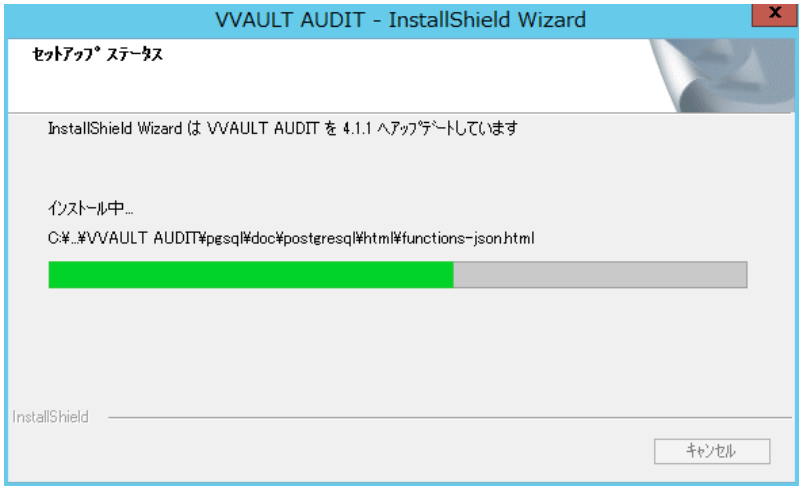
> **⚠ ご注意**
> UAC が有効の場合、インストーラーは管理者権限で実行してください。またドメインメンバーのコンピューターにインストールする場合は、ローカルの管理者アカウントでログインしてから実行してください。

② インストーラーのウィザード開始画面にて「次へ」ボタンをクリックします。

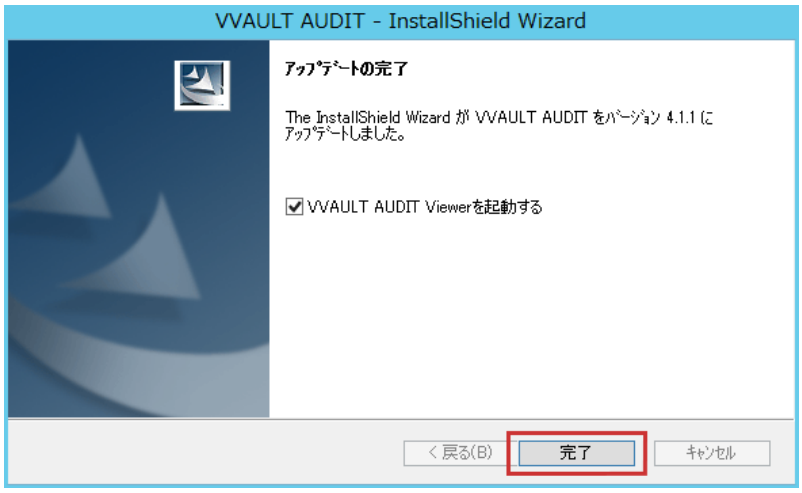


手順解説

③ インストールが開始されます。



④「完了」ボタンをクリックするとアップデートが完了します。



1-4
アーカイブファイルを使用したインストールの手順

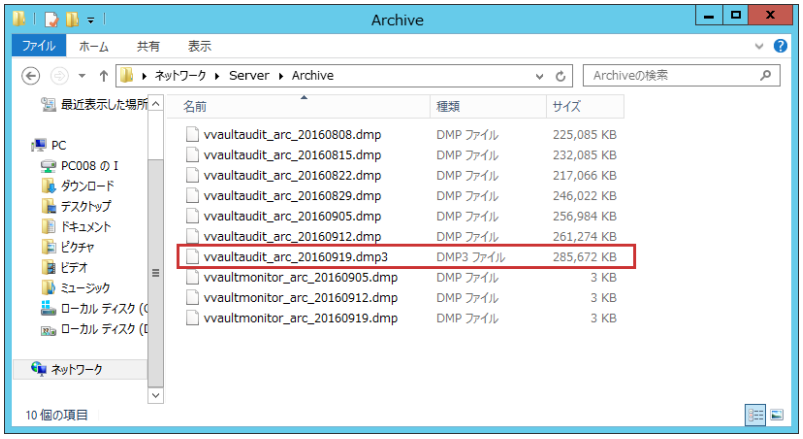
ここではアーカイブファイルから環境を復元、または別のファイルサーバーへ環境を移行する手順について説明します。
バージョン3.1.0より、出力されたアーカイブファイルに環境情報が含まれるようになりました。このファイルから環境を復元することができます。

ご注意

アーカイブファイルの拡張子は「～.dmp3」ファイルとなります。
アーカイブファイルを出力した同一バージョンのインストーラーご使用ください。

手順解説

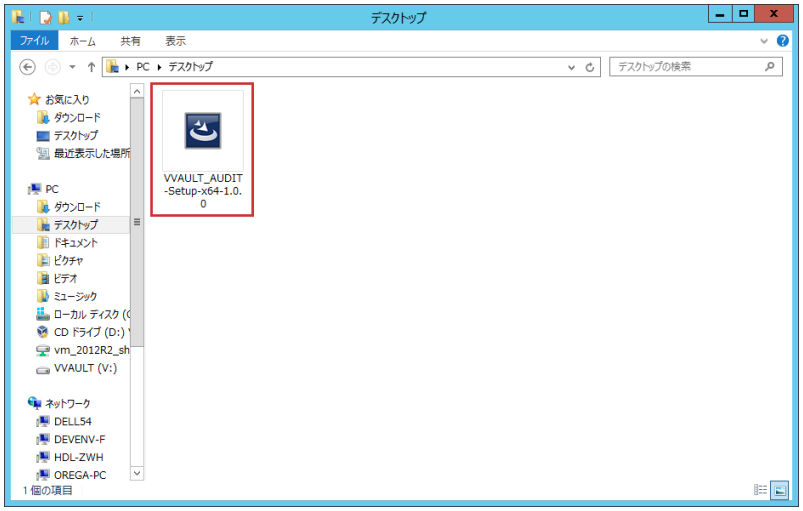
① 新しくアーカイブ保存先として使用するフォルダに、アーカイブファイルを配置します。



ワンポイント

インストーラーは、このフォルダに配置された最も新しいアーカイブファイルのみを自動復元します。
アーカイブファイルが大量にあり、配置に時間がかかる場合は、最新日付のアーカイブファイルのみを配置してインストールすることも可能です。この場合、最新を除くアーカイブファイルはインストール完了後に配置してください。

② 以前の環境と同じバージョンのインストーラー（3.1.0以降）を実行します。

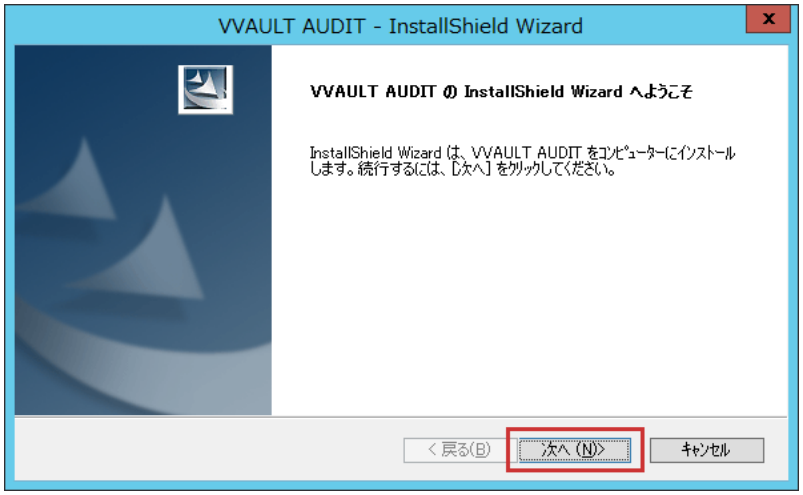


ご注意

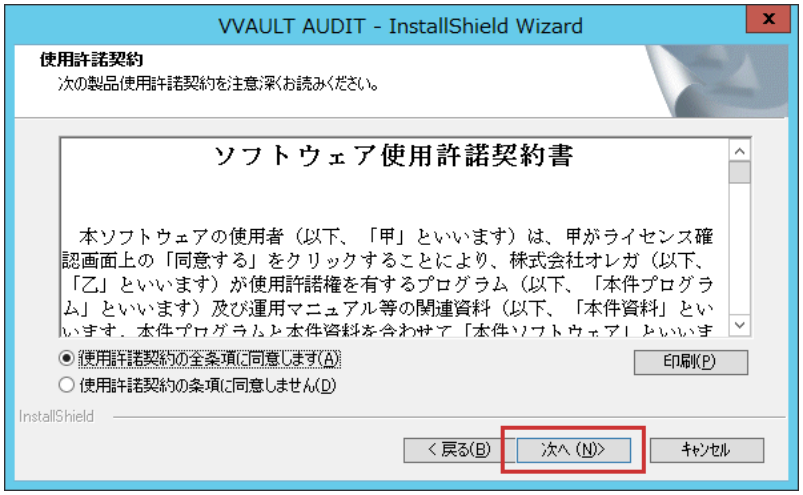
UACが有効の場合、インストーラーは管理者権限で実行してください。またドメインメンバーのコンピューターにインストールする場合は、ローカルの管理者アカウントでログインしてから実行してください。

手順解説

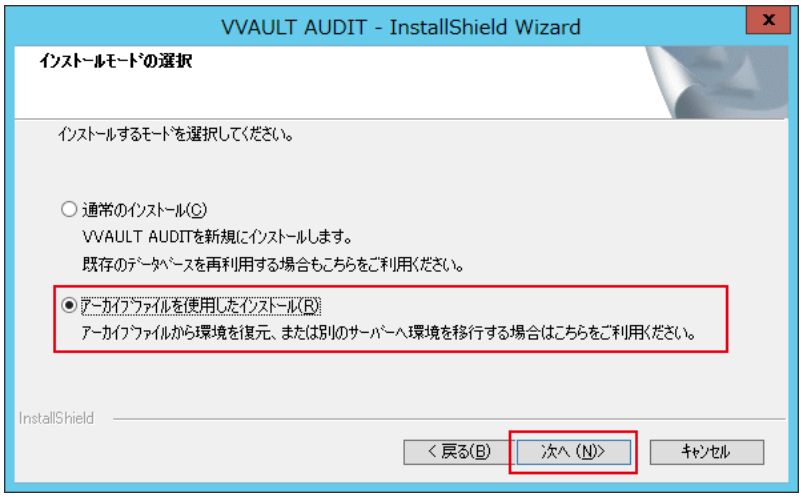
③ インストーラーのウィザード開始画面にて「次へ」ボタンをクリックします。



④ 使用許諾契約を確認後、「使用許諾契約の全条項に同意します（A）」を選択し「次へ」ボタンをクリックします。

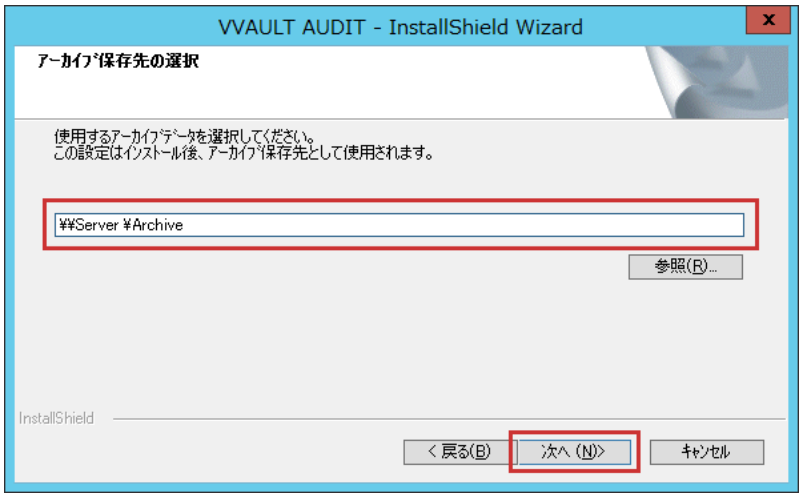


⑤ インストールのモード選択画面にて「アーカイブファイルを使用したインストール」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

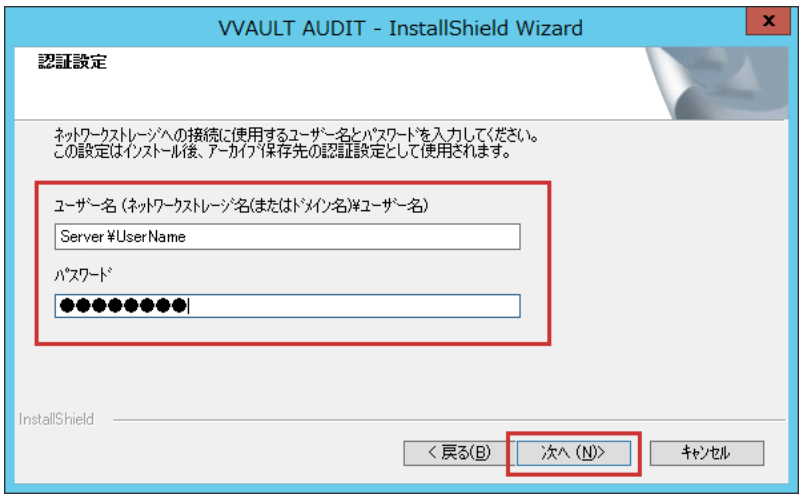


手順解説

⑥ アーカイブファイルを配置した①のパスを指定し、「次へ」ボタンをクリックします。



⑦ アーカイブファイルを配置した①のパスがネットワークストレージの場合、接続するための認証画面が表示されます。



ワンポイント

アーカイブファイルを配置した①のパスがネットワークストレージ（¥¥～から始まるパス）ではない場合、この認証画面は表示されません。

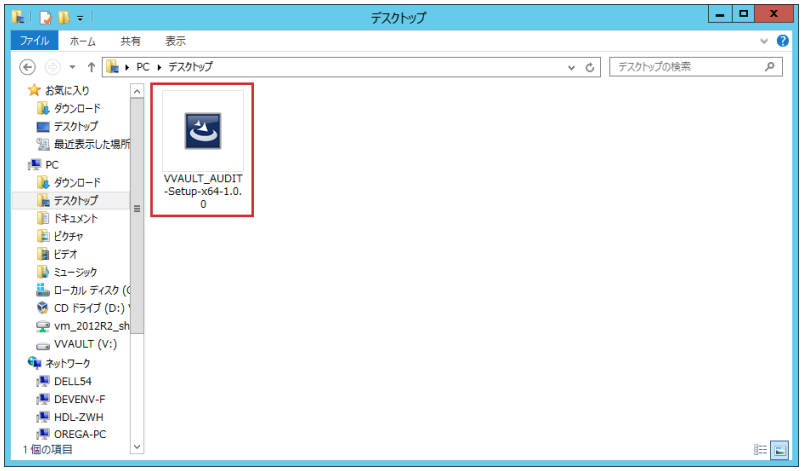
以降の手順は「1-2 インストールの手順（P.10）」の⑤以降と同様となりますので、そちらをご覧ください。
※アーカイブファイルを使用したインストール後はライセンスの再登録を行う必要があります。詳しくは「2-1 ライセンスについて（P.24）」を参照してください。

1-5
アンインストールの手順

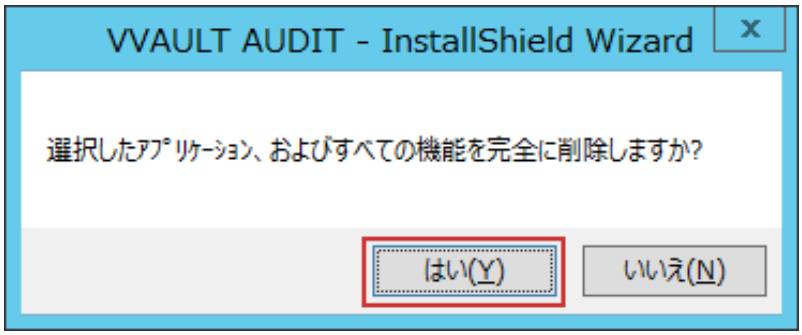
本製品をアンインストールするには、以下の手順に従ってください。尚、アンインストールするとVVAULT AUDITのDBデータは削除されますが、Windowsのイベントログに影響はありません。

手順解説

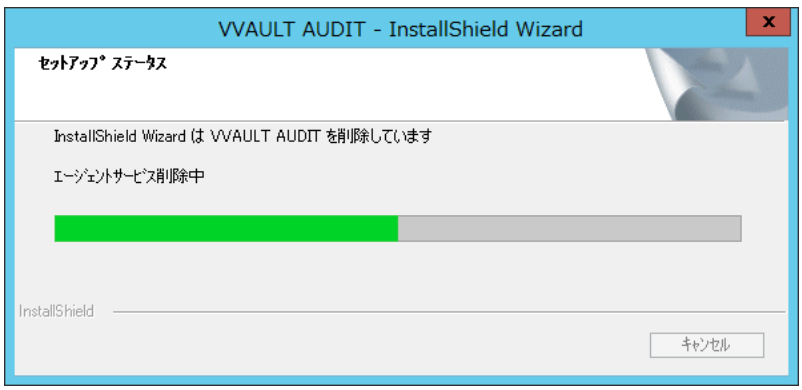
①インストールされているVVAULT AUDITと同じバージョンのインストーラーを実行します。



② 以下のダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。



③ アンインストールが開始されます。



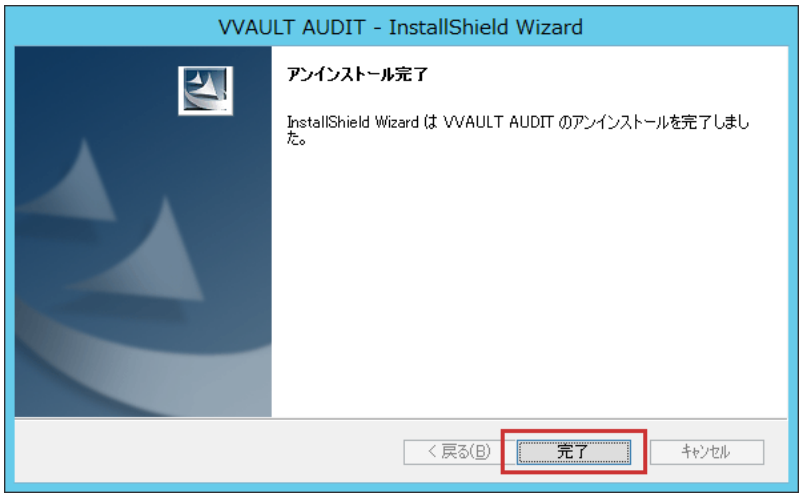
ワンポイント

インストールに使用したインストーラーが無い場合は、コントロールパネルの「プログラムと機能」からVVAULT AUDITを右クリックしてアンインストーラーを起動することができます。尚「プログラムと機能」と同等の機能はOSによって名称や操作が異なります。

手順解説

④ 以下のダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。

⑤「完了」ボタンをクリックしアンインストールを完了させます。



ワンポイント

DBデータを残したまま再インストールする場合、「いいえ」ボタンをクリックしてください。
※一時ファイルはアンインストール時点で削除されるため再利用できません。

2 ライセンスの登録

Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5

2-1 ライセンスについて 24

2-2 各部の名称と役割 25

2-3 ライセンスコードでの登録 27

2-4 オンラインでの登録 30

2-5 オフラインでの登録 33

2-6 Express Passライセンスのアクティベーション 39

2-1 ライセンスについて

本製品には基本ライセンスとしてBasicライセンスが登録されています。Basicライセンスは、使用可能な機能とカスタマーズ・スクエアで提供されるサービスに一部制限がありますが、無料でご利用いただけます。ライセンスについての詳細は、製品サイトの「ライセンス」ページ（http://vvault.jp/license/index.html）をご覧ください。

ライセンスの登録方法

機能やサービスの制限を解除するには、対応したライセンスの登録が必要になります。尚、ライセンスの登録方法はご使用の環境によって異なりますので、以下より適切な登録の手順をご覧ください。

・当社発行のライセンスコードをお持ちの場合 .....「2-3 ライセンスコードでの登録（P.27）」
・インターネットに接続可能なコンピューターでご利用の場合.....「2-4 オンラインでの登録（P.30）」
・インターネットに接続できないコンピューターでご利用の場合.....「2-5 オフラインでの登録（P.33）」
・Express Passライセンスのアクティベーションの場合.....「2-6 Express Passライセンスのアクティベーション（P.39）」

「ライセンスコードでの登録」および「オンラインでの登録」では、インストールするコンピューターからカスタマーズ・スクエアにアクセスします。インターネットに接続する際にプロキシを利用する場合は「3-2 各部の名称と役割（P.45）」をご参照ください。

ライセンスの失効について

有効期限を超過した場合などライセンス違反となった際は「ライセンス失効画面」に切り替わります。この場合、本製品で管理している監査データの登録は続行されますが、検索操作ができなくなりますのでご注意ください。尚、レポートメール（詳細は「4-1 レポートメールとは（P.48）」を参照）機能によって、有効期限が近づいた際は警告メールを送信しますので、予めメールの設定をしておくことを推奨します。

【ライセンス失効となる条件】

・ライセンスの有効期限を超過した場合
・DBデータ保存期間が許可された制限値を超えている場合
・アーカイブ不許可ライセンスにてアーカイブ保存先を設定している場合
・統合管理不許可ライセンスにて管理対象サーバーが追加されている場合
・有効なアクセス監視ルールの数が制限値を超えている場合
・アーカイブファイルを使用したインストールを行った場合

ライセンスの再発行について

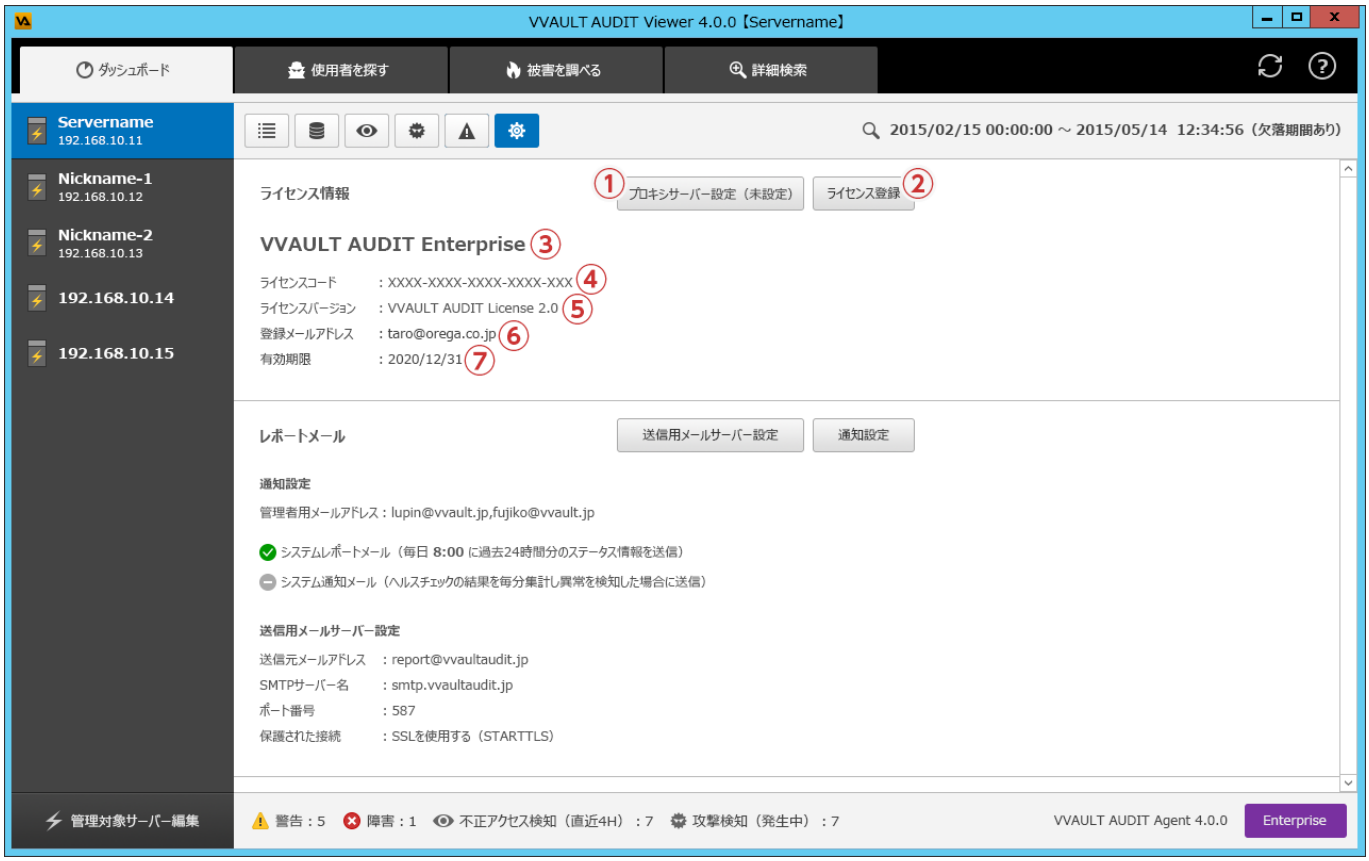
本製品のライセンスは、本製品を再インストールした場合などにご利用いただけるよう、5回まで再発行が可能となっております。オンライン登録、およびライセンスコードでの登録では、「登録」ボタンを実行した際に、オフライン登録では、カスタマーズ・スクエアにて、ライセンス識別ファイルをアップロードした際にライセンス発行処理が1回実行されます

2-2
各部の名称と役割

本製品に登録されているライセンスの情報は、VAビューアーの「ダッシュボードタブ＞ システム設定アイコン＞ ライセンス情報」でご確認いただけます。
ライセンス設定画面の各部の名称と役割については以下をご覧ください。

※尚、ライセンス失効状態では、左側のメニューから検索関連のメニューが非表示となります。

ライセンス設定画面



名称と役割

① [プロキシサーバー設定] ボタン
「ライセンスコードでの登録」「オンラインでの登録」を利用する際、カスタマーズ・スクエア（https://vvault.jp/customers/）への接続にプロキシサーバーを利用します。プロキシサーバーの設定については「3-2 各部の名称と設定」を参照してください。

② [ライセンス登録] ボタン
ライセンス登録ウィザードを起動します。

③ ライセンス名
現在登録されているライセンスの名称が表示されます。

④ ライセンスコード
現在登録されているライセンスのライセンスコードが表示されます。

⑤ ライセンスバージョン
現在登録されているライセンスのライセンスバージョンが表示されます。

⑥ 登録メールアドレス

ライセンス登録時に使用したメールアドレス（カスタマーズ・スクエアへのログインID）が表示されます。

⑦ 有効期限

現在登録されているライセンスの有効期限が表示されます。

※自動更新ライセンスを登録している場合「 再確認」ボタンが表示されます。クリックするとカスタマーズ・スクエアへ接続して最新のライセンスファイルを取得します。

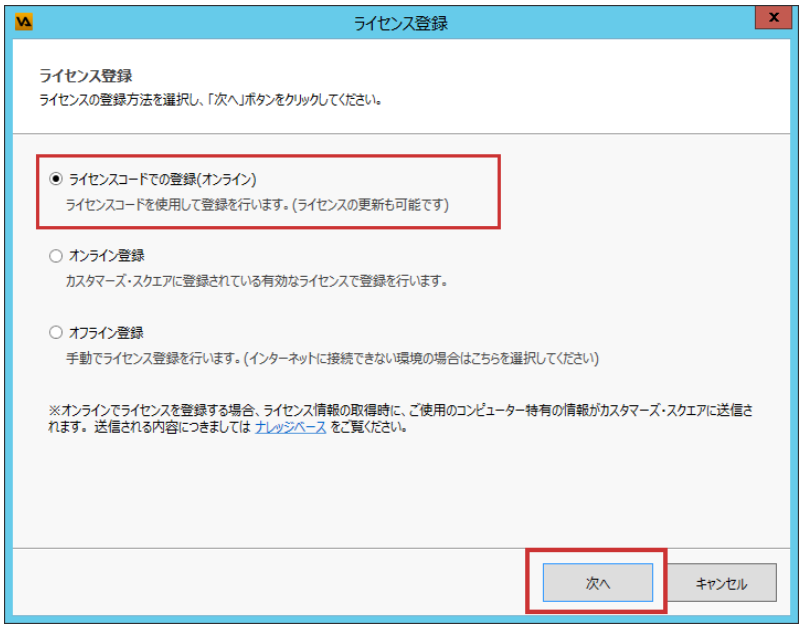
2-3
ライセンスコードでの登録

ライセンスコードでの登録には、当社が発行したライセンス証書、またはカスタマーズ・スクエア（https://vvault.jp/customers/）で購入・発行されたライセンスに記載されているライセンスコードが必要になります。お手元にご用意の上、以下の手順に従って登録してください。尚、ライセンスコードでの登録はインターネットへの接続が必要になります。（インターネットに接続する際にプロキシを利用する場合は「3-2 各部の名称と役割（P.45）」をご参照ください）インターネットに接続できない環境の場合は「オフラインでの登録」をご覧ください。

手順解説

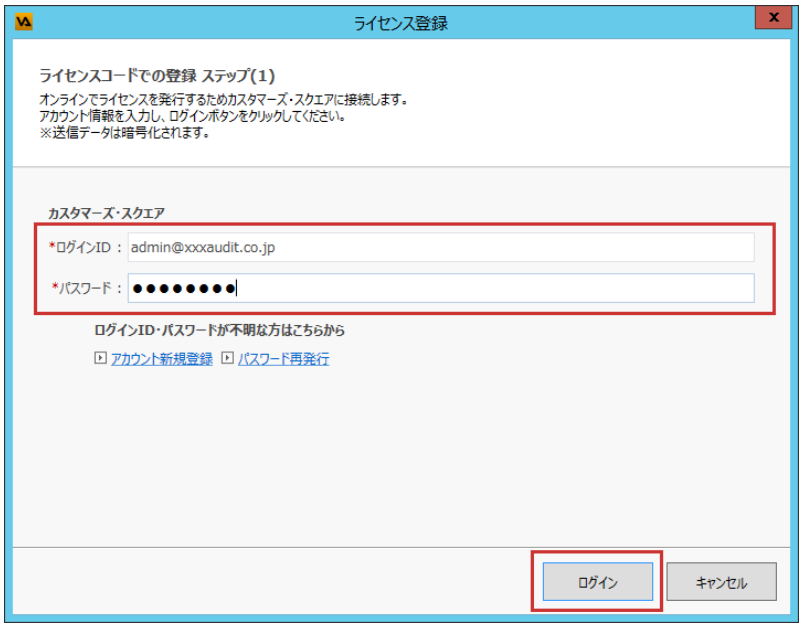
①「システム設定」>「ライセンス登録」ボタンをクリックします。

②「ライセンスコードでの登録（オンライン）」を選択し、「次へ」をクリックします。

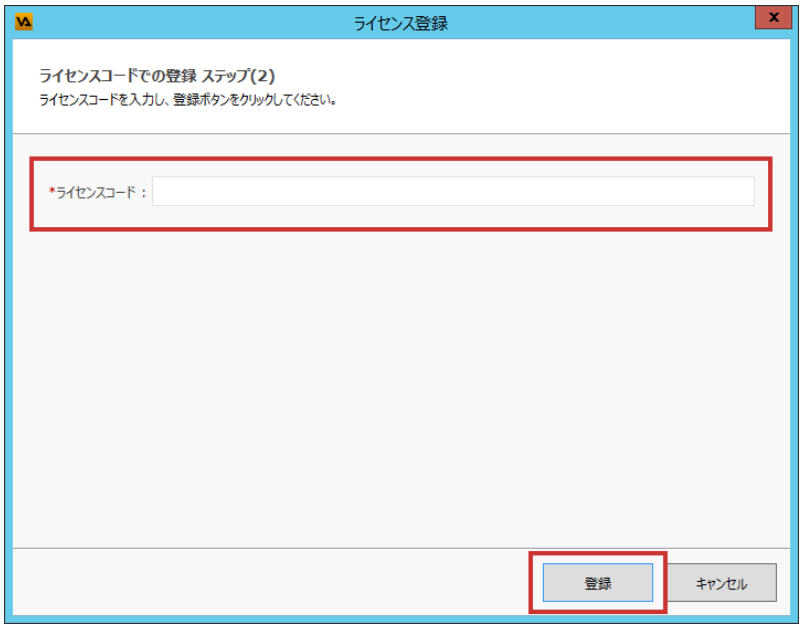


手順解説

③ カスタマーズ・スクエア（https://vvault.jp/customers/）のログインID・パスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。



④ ライセンスコードを入力し、「登録」ボタンをクリックします。



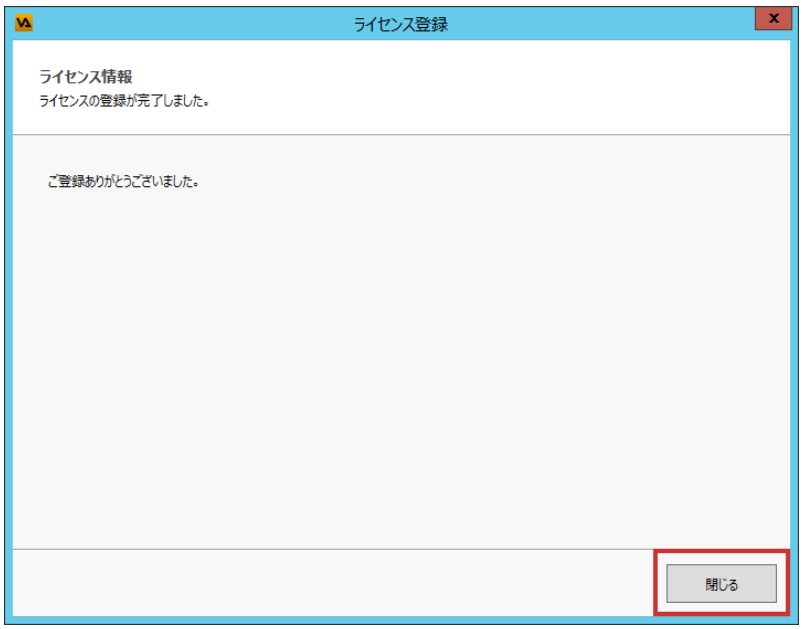
ワンポイント

カスタマーズ・スクエアのアカウントをお持ちでない場合は、「ユーザ登録申請」より、アカウントを作成してください。
パスワードをお忘れの場合は、「パスワード再発行申請」より、パスワードを再発行してください。

手順解説

⑤ 登録内容を確認し、問題がなければ「登録」ボタンをクリックします。

⑥ 正常にライセンスの登録が完了した場合は、以下のようなメッセージが表示されます。「閉じる」ボタンをクリックすると、登録したライセンス情報がシステム設定画面に反映されます。

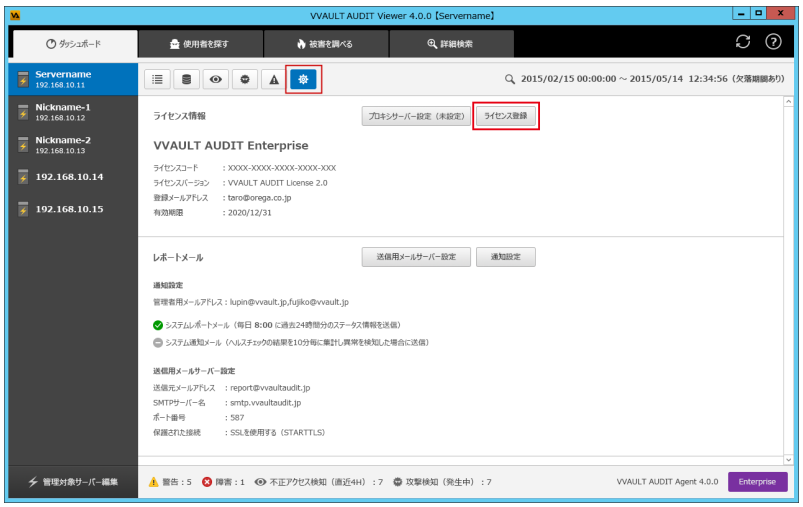


2-4
オンラインでの登録

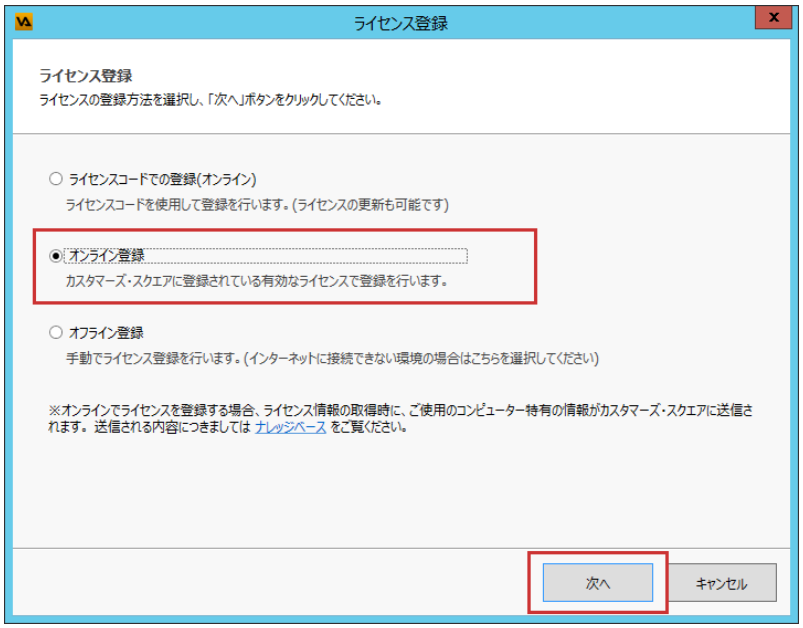
オンラインでの登録はインターネットへの接続が必要になります。(インターネットに接続する際にプロキシを利用する場合は「3-2 各部の名称と役割 (P.45)」をご参照ください) インターネットに接続できない環境の場合は「2-5 オフラインでの登録 (P.33)」をご覧ください。

手順解説

①「システム設定」>「ライセンス登録」ボタンをクリックします。

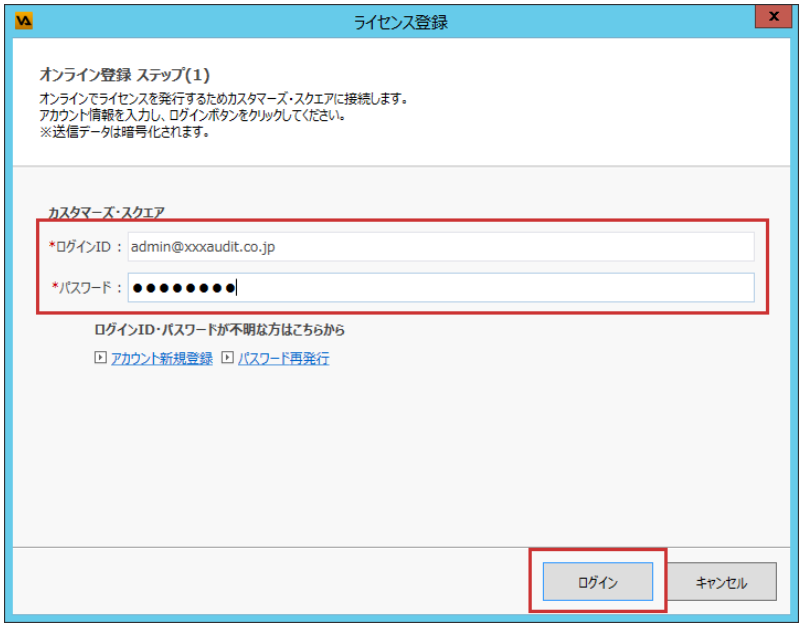


②「オンライン登録」を選択し、「次へ」をクリックします。

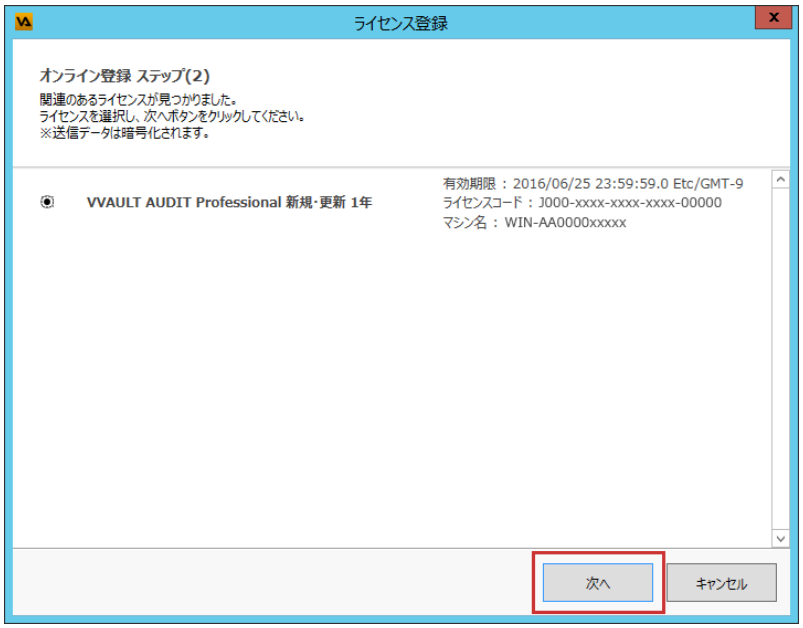


手順解説

③ カスタマーズ・スクエア（https://vvault.jp/customers/）のログインID・パスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。



④ カスタマーズ・スクエアにて購入・発行済みで未登録のライセンス一覧が表示されますので、任意のライセンスを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



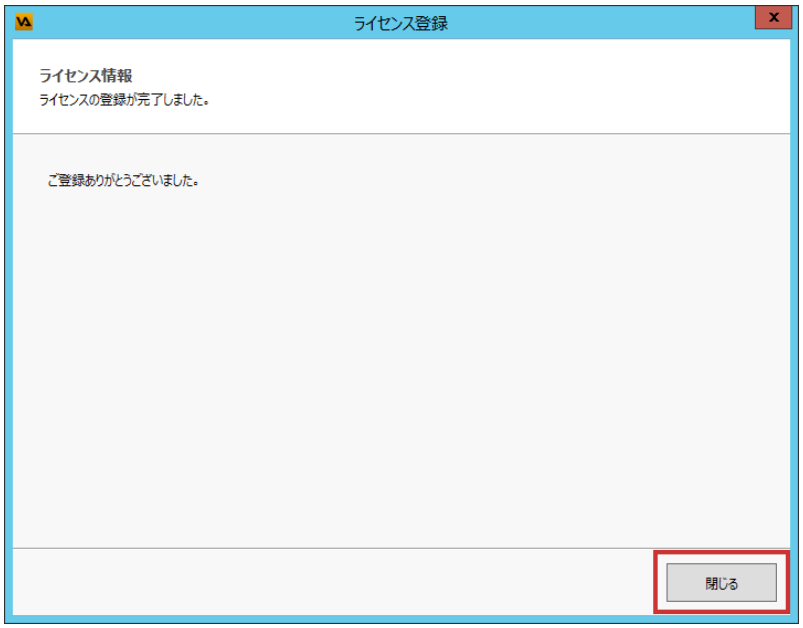
ワンポイント

カスタマーズ・スクエアのアカウントをお持ちでない場合は、「ユーザ登録申請」より、アカウントを作成してください。
パスワードをお忘れの場合は、「パスワード再発行申請」より、パスワードを再発行してください。

手順解説

⑤ 登録内容を確認し、問題がなければ「登録」ボタンをクリックします。

⑥ 正常にライセンスの登録が完了した場合は、以下のようなメッセージが表示されます。「閉じる」ボタンをクリックすると、登録したライセンス情報がシステム設定画面に反映されます。

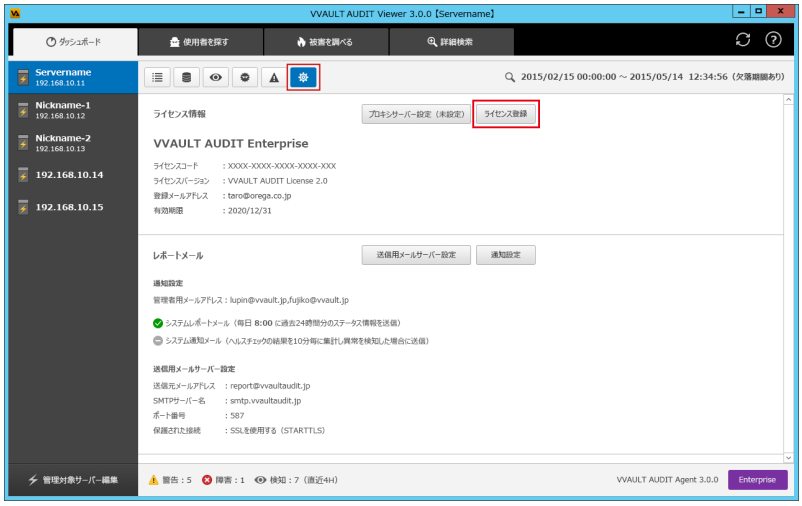


2-5
オフラインでの登録

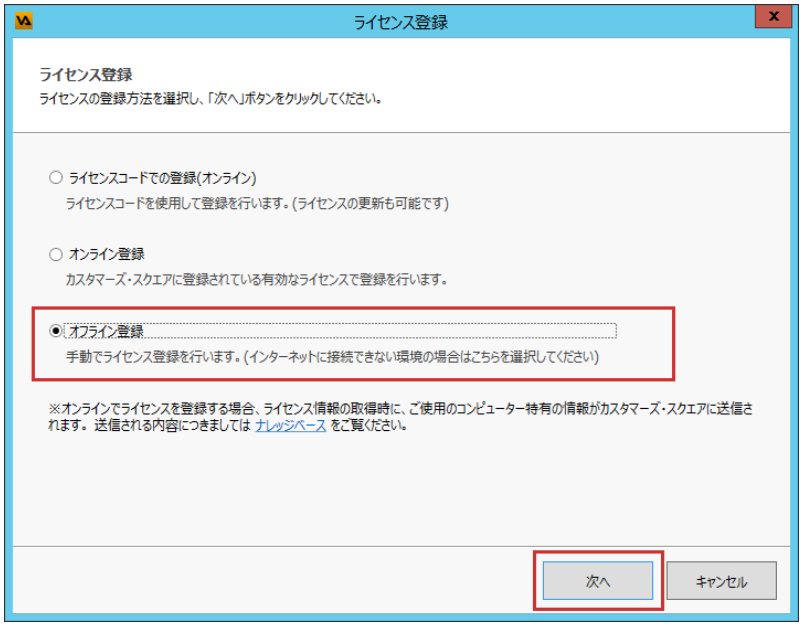
オフラインでの登録には、当社が発行したライセンス証書、またはカスタマーズ･スクエア（https://vvault.jp/customers/）で購入･発行されたライセンスに記載されているライセンスコードが必要になります。お手元にご用意の上、以下の手順に従って登録してください。

手順解説

①「システム設定」＞「ライセンス登録」ボタンをクリックします。

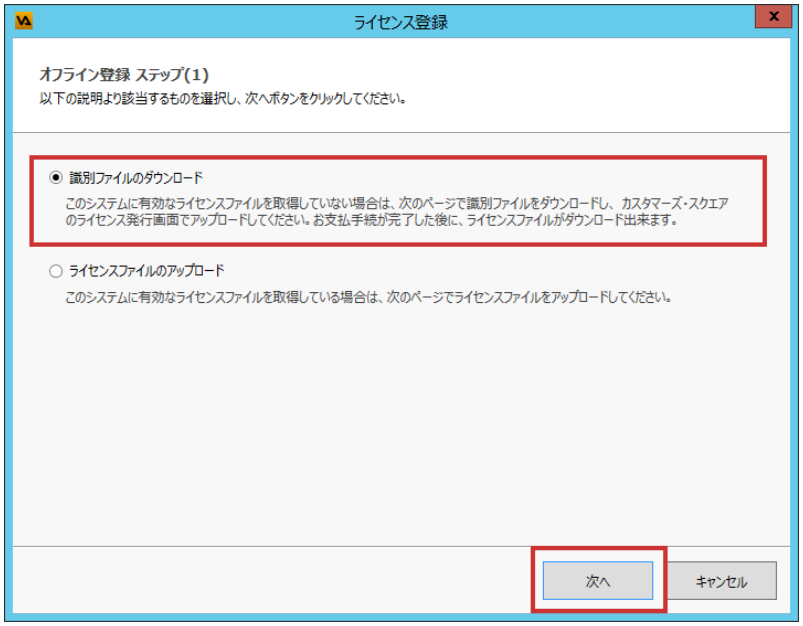


②「オフライン登録」を選択し、「次へ」をクリックします。

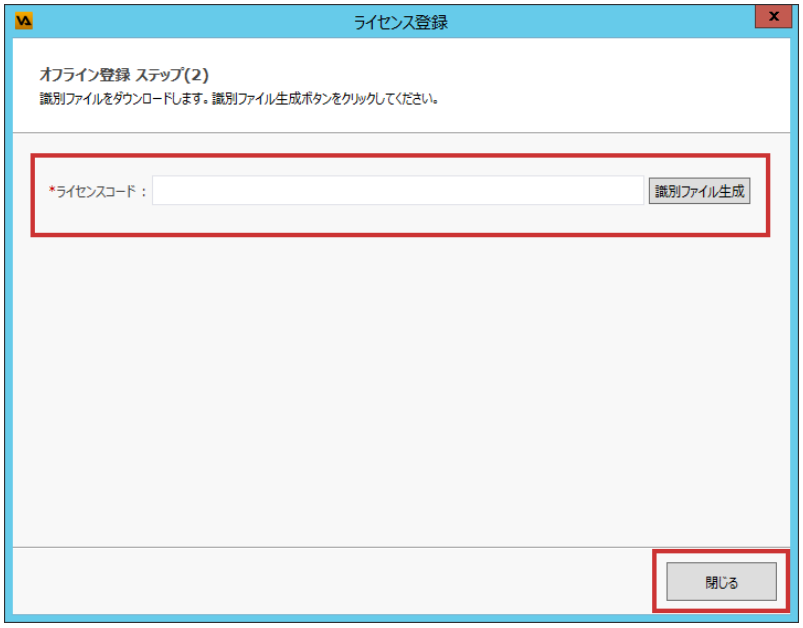


手順解説

③「識別ファイルのダウンロード」を選択し、「次へ」をクリックします。

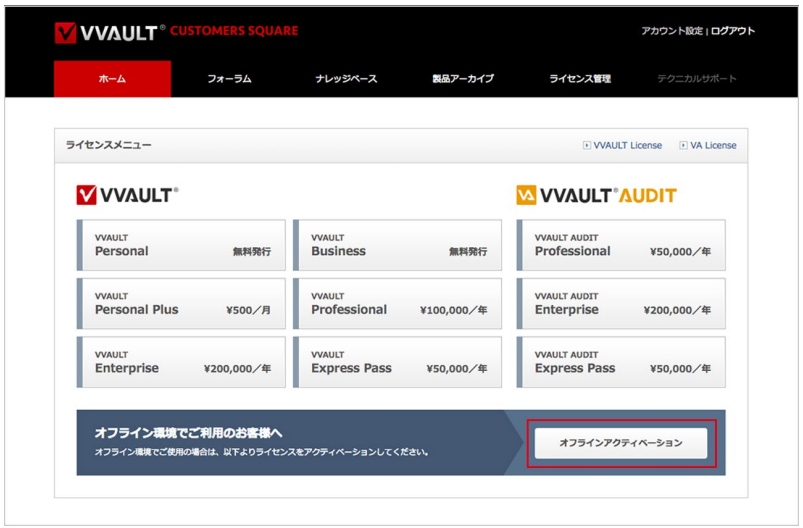


④ ライセンスコードを入力し、「識別ファイル生成」ボタンをクリックし、ライセンス識別ファイル（LicenseRequest.bin）をダウンロードします。



手順解説

⑤ カスタマーズ・スクエアのホーム画面より「オフラインアクティベーション」をクリックします。



⑥ ④でダウンロードした「ライセンス識別ファイル（LicenseRequest.bin)」を選択し、「決定」ボタンをクリックします

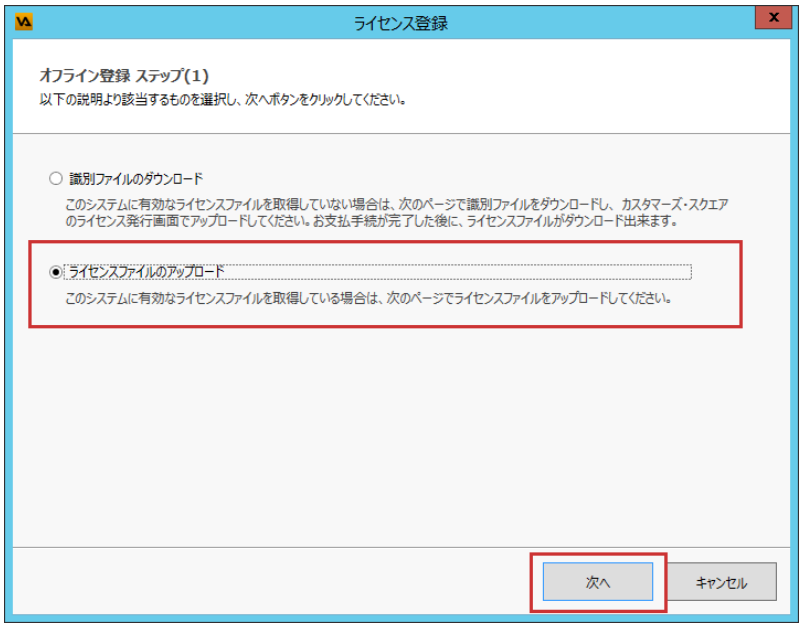
手順解説

⑦ 登録内容を確認し、問題がなければ「決定」ボタンをクリックします。

⑧「ダウンロード」ボタンをクリックし、ライセンスファイル（例：XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXX.txt）をダウンロードします。

手順解説

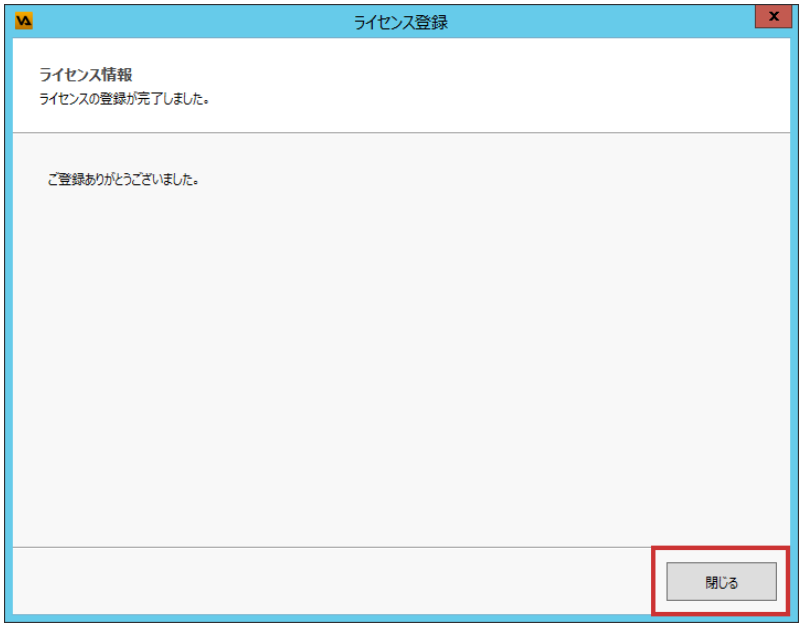
⑨ 本製品のライセンス設定画面にて③の画面を表示後、今回は「ライセンスファイルのアップロード」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



⑩ ⑧でダウンロードしたライセンスファイルを選択し、「登録」ボタンをクリックします。

手順解説

⑪ 正常にライセンスの登録が完了した場合は、以下のようなメッセージが表示されます。「閉じる」ボタンをクリックすると、登録したライセンス情報がシステム設定画面に反映されます。



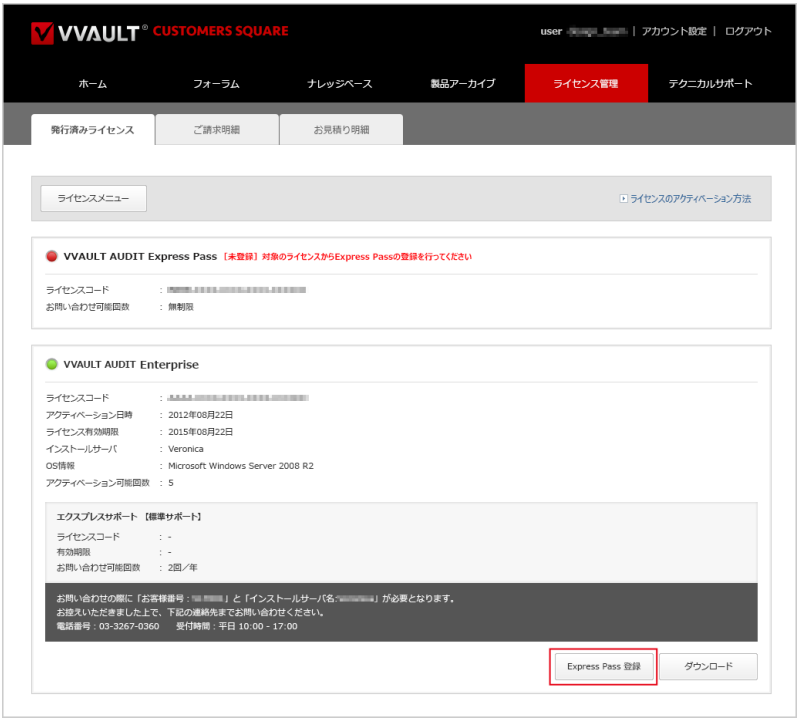
2-6
Express Passライセンスのアクティベーション

Express Passライセンスは、カスタマーズ・スクエア（https://vvault.jp/customers/）でアクティベーションする事で、利用可能となります。ここでは、カスタマーズ・スクエアでのアクティベーション方法について説明します。

手順解説

① 「ライセンス管理」をクリックします。

② アクティベーション済みのEnterpriseライセンス枠内にある「Express Pass 登録」ボタンをクリックします。



ワンポイント

画像はExpress Passライセンス（アクティベーション待ち）とEnterpriseライセンス（アクティベーション済み）を所持している状態です。

手順解説

③ Express Passライセンスコードを入力して「決定」ボタンをクリックします。

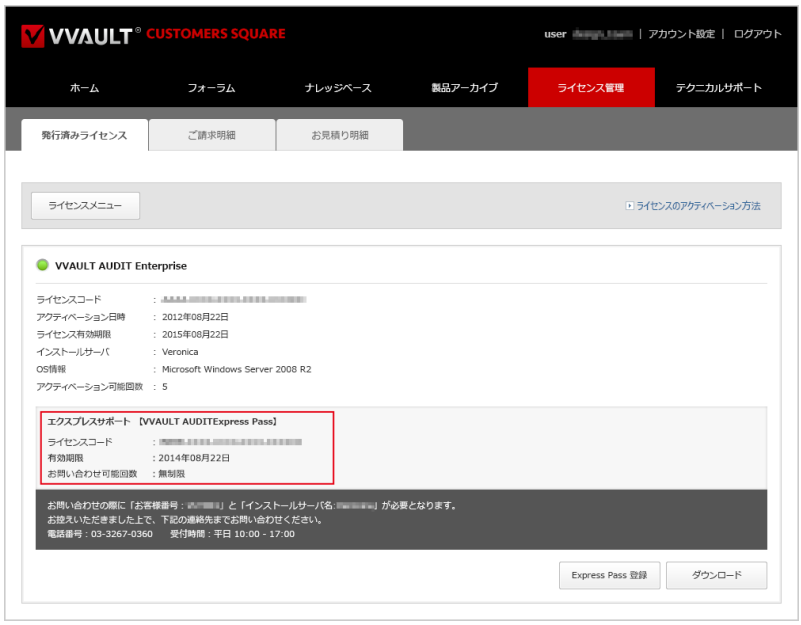
④「アクティベーション内容の確認」では、「更新後」の欄に②で選択したライセンス情報が表示されます。このライセンスのアクティベーションを行う場合は「決定」をクリックします。

⚠ ご注意
この操作は取り消せませんのでご注意ください。

⑤ Express Passが適用されたEnterpriseライセンスコードが表示されますので「閉じる」をクリックします。

手順解説

⑥ これでアクティベーション完了です。該当のEnterpriseライセンス枠内の「エクスプレスサポート」欄の情報が更新されていることをご確認ください。



ワンポイント

なお、使用したExpress Passライセンス枠は非表示となります。有効期限には、適用するEnterpriseライセンス有効期間を1年区切りとした直近の区切日が設定されます。

3 プロキシサーバーの設定

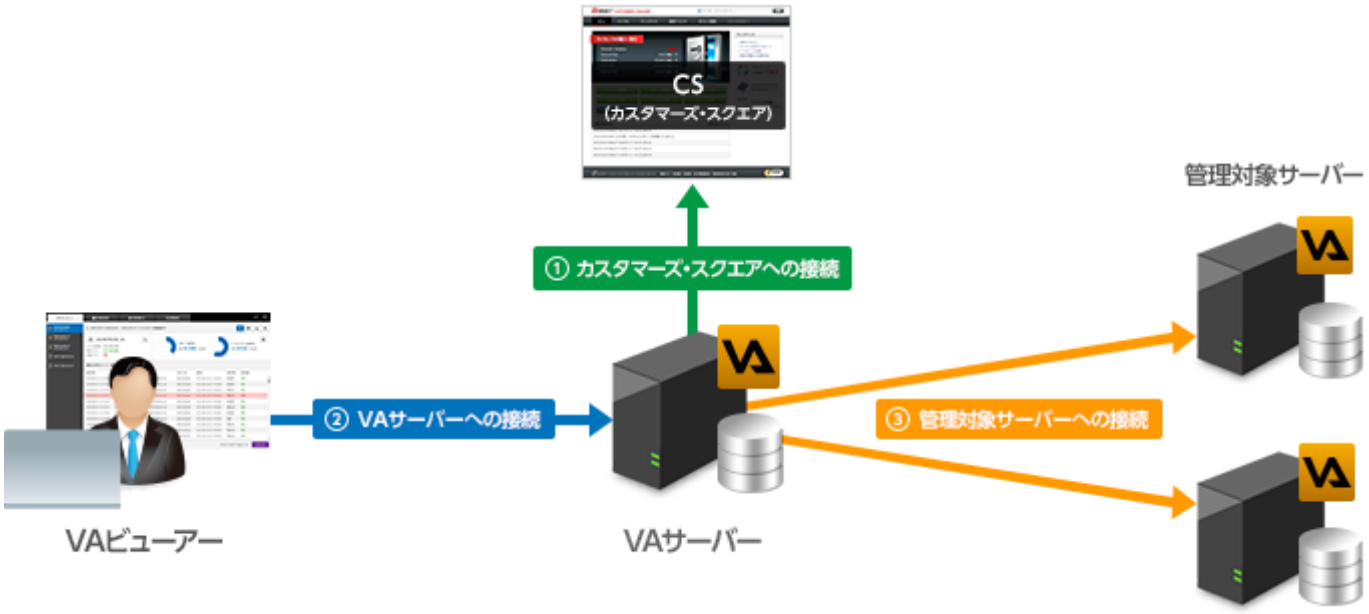
Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5

3-1 プロキシサーバー設定について 44

3-2 各部の名称と役割 45

3-1
プロキシサーバー設定について

本製品で行われるネットワーク通信（下記の3つ）にプロキシサーバーを利用することができます。



① カスタマーズ・スクエアへの接続

ライセンス登録にて、「ライセンスコードでの登録」または「オンラインでの登録」方法を利用する際、カスタマーズ・スクエア（https://vvault.jp/customers/）への接続にプロキシサーバーを利用します。
設定ウィンドウを開くには、「ダッシュボードタブ」＞「システム設定」アイコン ＞ ライセンス情報の「プロキシサーバー設定」ボタンをクリックします。

② 管理対象サーバーへの接続

統合管理を行う際、管理対象サーバーへの接続にプロキシサーバーを利用します。
設定ウィンドウを開くには、「ダッシュボードタブ」の「管理対象サーバー編集」ボタンをクリックして表示される「管理対象サーバー編集ウィンドウ」の「プロキシサーバー設定」ボタンをクリックします。

③ VAサーバーへの接続

VAビューアーから、別のコンピューターにインストールされたVAサーバーへの接続にプロキシサーバーを利用します。
設定ウィンドウを開くには、VAビューアーのログイン認証画面にある「プロキシサーバー設定」ボタンをクリックします。

3-2
各部の名称と役割

プロキシサーバー設定ウィンドウ

名称と役割

① [プロキシサーバーを使用する] チェックボックス
プロキシサーバーを使用する場合はチェックを入れてください。

② サーバー名（入力必須）
プロキシサーバーのアドレスを入力する項目です。http:// を除くホスト名または IP アドレスを指定してください。
例）192.168.10.154

③ ポート番号
プロキシサーバーのポート番号を入力する項目です。

④ [ユーザ名とパスワードを使用する] チェックボックス
プロキシサーバーへの接続に認証が必要な場合はチェックを入れてください。

⑤ ユーザー名
プロキシサーバーへの接続に使用するユーザー名を入力する項目です。
Basic 認証の場合は「ユーザー名」のみを指定してください。
例）username
NTLM 認証の場合は「ドメイン名￥ユーザー名」の形式で指定してください。
例）domain¥username

⑥ パスワード
プロキシサーバーへの接続に使用するパスワードを入力する項目です。

⑦ [パスワードを表示] チェックボックス
パスワード欄に入力されている文字列を可視化します。

⑧ [接続テスト] ボタン
設定されたプロキシサーバーを経由し、カスタマーズ・スクエアへの接続テストを行います。管理対象サーバーへのプロキシ設定の場合、管理対象サーバー個別の接続テストボタンを実行してください。

⑨ **[決定] ボタン**
入力されている設定値を保存します。

⑩ **[キャンセル] ボタン**
設定値を保存せず、ウィンドウを閉じます。

4 レポートメールの設定

Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5

4-1 レポートメールとは 48

4-2 各部の名称と役割 49

4-1
レポートメールとは

レポートメールとは、本製品を使用中に発生した事象について、設定されたメールアドレスに対してレポートメールを送信する機能です。レポートメール機能を利用することでVAビューアーへログインしていなくても、障害情報や発生している問題を確認することができます。

レポートメールが送信されるイベント

【障害】

・Windowsの監査ポリシー設定にて「詳細なファイル共有の監査」が無効になっている場合
・イベントログの読み込みからデータベースへの登録処理でエラーが発生した場合
・DBデータ保存先ストレージの接続に失敗した場合
・アーカイブ保存先ストレージの接続に失敗した場合
・CSV出力先ストレージの接続に失敗した場合
・一時ファイルの読み込みや書き出しに失敗した場合
・CSV出力に失敗した場合
・ユーザーの所属グループ一覧の取得に失敗した場合
・ログデータのインデックスが破損している場合
・ログデータのインデックス削除・作成に失敗した場合
・アーカイブの作成・復元・削除に失敗した場合

【警告】

・Windowsのイベントログ設定にて、「ログ最大サイズ」が1GBを下回っている場合
・Windowsの監査ポリシー設定にて「ログオンの監査」が無効になっている場合
・Windowsのイベントログ設定にて、「イベントを上書きしない（ログを手動で消去）」になっている場合
・アクセス監視ルールに該当するアクセスを検知した場合
・攻撃検知ルールに該当するアクセスを検知した場合
・DBデータ保存先ストレージの空き容量が1GBを下回っている場合
・アーカイブ保存先ストレージの空き容量が1GBを下回っている場合
・一時ファイル保存先ストレージの空き容量が1GBを下回っている場合
・CSV出力先ストレージの空き容量が1GBを下回っている場合
・ライセンスの有効期限に近づいた場合

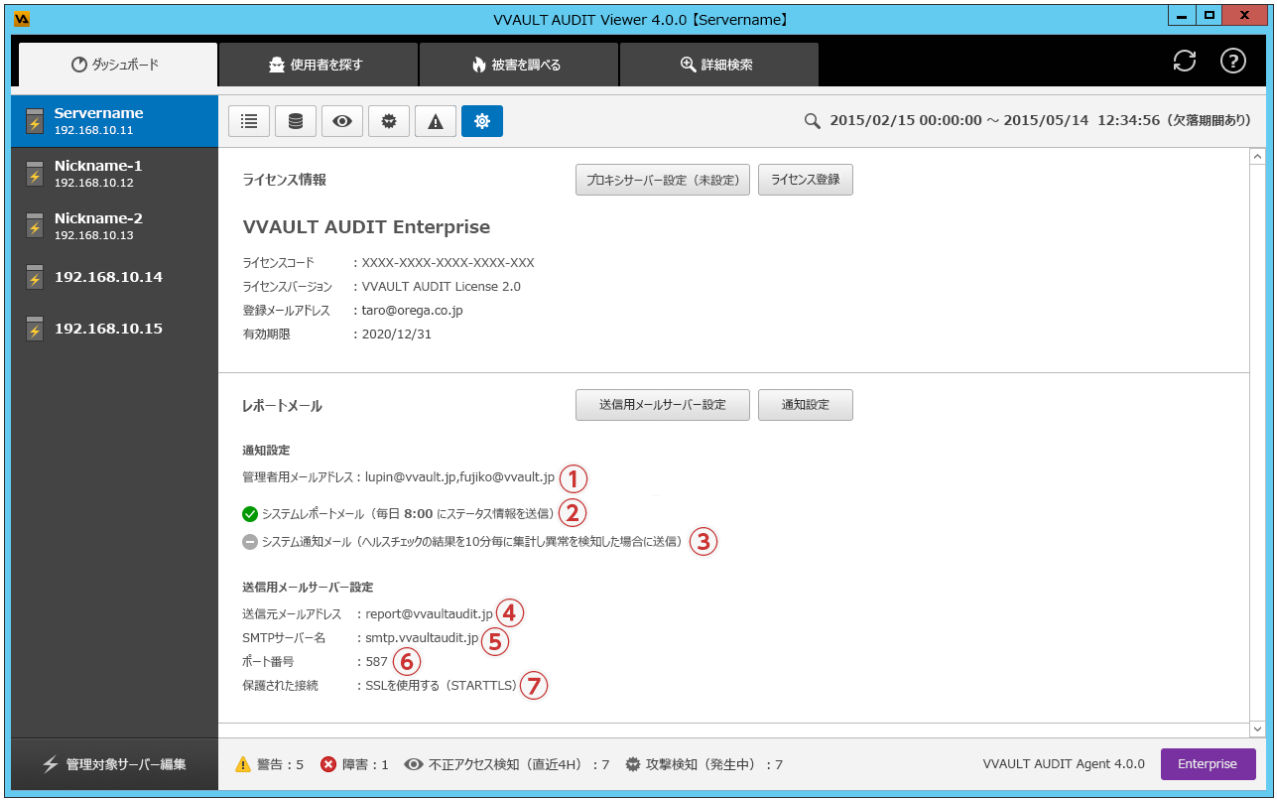
【情報】

・システムレポートメール（毎日AM0時 ※変更可）
・アクセス監視レポートメール（毎日AM0時 ※変更可）
・アーカイブの復元が完了した場合
・レポートメールの送信テストを行った場合
・ログデータのインデックス削除・作成が完了した場合

4-2
各部の名称と役割

レポートメールの設定情報は、VAビューアーの「ダッシュボードタブ ＞ システム設定アイコン ＞ レポートメール設定」でご確認いただけます。メール設定画面の各部の名称と役割については以下をご覧ください。

レポートメール設定画面



名称と役割

① 管理者メールアドレス
現在設定されているレポートメールの送信先アドレスが表示されます。

② システムレポートメール
現在設定されているシステムレポートメールの有効状態と送信時刻が表示されます。

③ システム通知メール
現在設定されているシステム通知メールの有効状態が表示されます。

④ 送信元メールアドレス
現在設定されているレポートメールの送信元アドレスが表示されます。

⑤ SMTP サーバー名
現在設定されている SMTP サーバー情報が表示されます。

⑥ ポート番号
現在設定されているポート番号が表示されます。

⑦ 保護された接続
現在設定されている SSL 使用有無の設定が表示されます。

送信用メールサーバー設定ウィンドウ

名称と役割

① 送信元アドレス
レポートメールの送信元メールアドレスを入力する項目です。未入力の場合は１番目の送信先アドレスとなります。

② SMTP サーバー名（入力必須）
SMTP サーバー名を入力する項目です。

③［認証設定］ボタン
SMTP サーバへの接続認証設定ウィンドウを表示します。

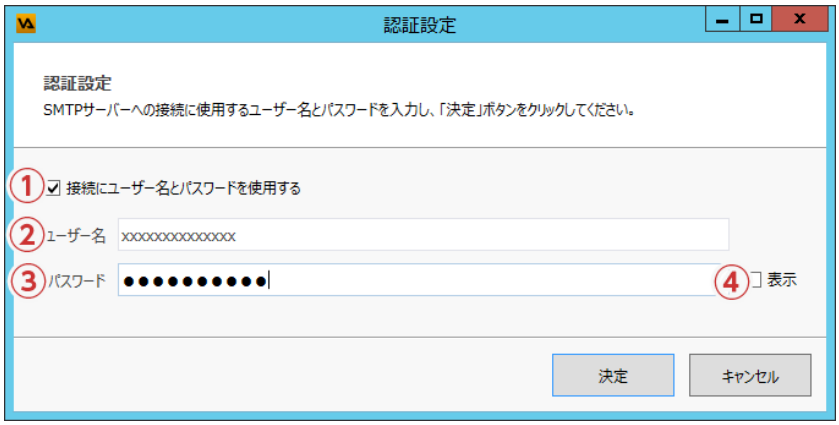
④ ポート番号
SMTP のポート番号を入力する項目です。未入力の場合は 25 番ポートが使用されます。

⑤ 保護された接続
SMTP サーバーへの接続方法を選択する項目です。

⑥［決定］ボタン
入力されている設定値を保存します。

⑦［キャンセル］ボタン
設定値を保存せず、ウィンドウを閉じます。

認証設定ウィンドウ



名称と役割

① [ユーザー名とパスワードを使用する] チェックボックス
SMTP サーバーへの接続に認証が必要な場合はチェックを入れてください。

② ユーザー名（①チェック時入力必須）
SMTP サーバーへの接続に使用するユーザー名を入力する項目です。

③ パスワード（①チェック時入力必須）
SMTP サーバーへの接続に使用するパスワードを入力する項目です。

④ [表示] チェックボックス
パスワード欄に入力されている文字列を可視化します。

通知設定ウィンドウ

名称と役割

① 管理者メールアドレス（入力必須）

管理者用メールアドレスを入力する項目です。複数の送信先を指定する場合は、セミコロンまたはカンマ区切りで入力してください。

② システムレポートメール

システムレポートメールを送信する場合はチェックを入れ、送信時刻を入力してください。

③ システム通知メール

システム通知メールを送信する場合はチェックを入れてください。

※事前に送信用メールサーバーが設定されている必要があります。

④［送信テスト］ボタン

入力されている設定値で送信テストを行います。

⑤［決定］ボタン

入力されている設定値を保存します。

⑥［キャンセル］ボタン

設定値を保存せず、ウィンドウを閉じます。

5 データテーブルの管理

Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5

5-1 データテーブルの管理とは 54

5-2 各部の名称と役割 55

5-1
データテーブルの管理とは

データテーブルについて

VVAULT AUDITは以下2つのデータテーブルを週単位で分割し、データベースに保存します。

・ログデータ……ファイルサーバーへのアクセスログ
・アクセス検知データ……アクセス監視ルールに該当したアクセスログの一部

データテーブルの自動削除について

データテーブルは、設定されている「DBデータ保存期間」を超過すると自動的に削除されます。この「DBデータ保存期間」の長さによって、検索可能範囲とDBデータが増減します。お使いのストレージ容量に合わせて、適切な「DBデータ保存期間」を設定してください。尚、データテーブルの自動削除は毎日午前1時に実行されます。

アーカイブの作成について

アーカイブ機能を使用すると、データテーブルをファイルに書き出してバックアップすることができます。
自動アーカイブ機能を有効にしている場合は、1日1回自動的にアーカイブが作成されます。
手動でアーカイブを作成する場合は、各データテーブルの「アーカイブ」ボタンを押下してください。

古いアーカイブは設定されている「アーカイブ自動削除」により、アーカイブ保存先のストレージに空き容量がない場合や保存期限で削除します。

尚、自動アーカイブ機能のアーカイブ作成は毎日午前1時に実行されます。

ワンポイント

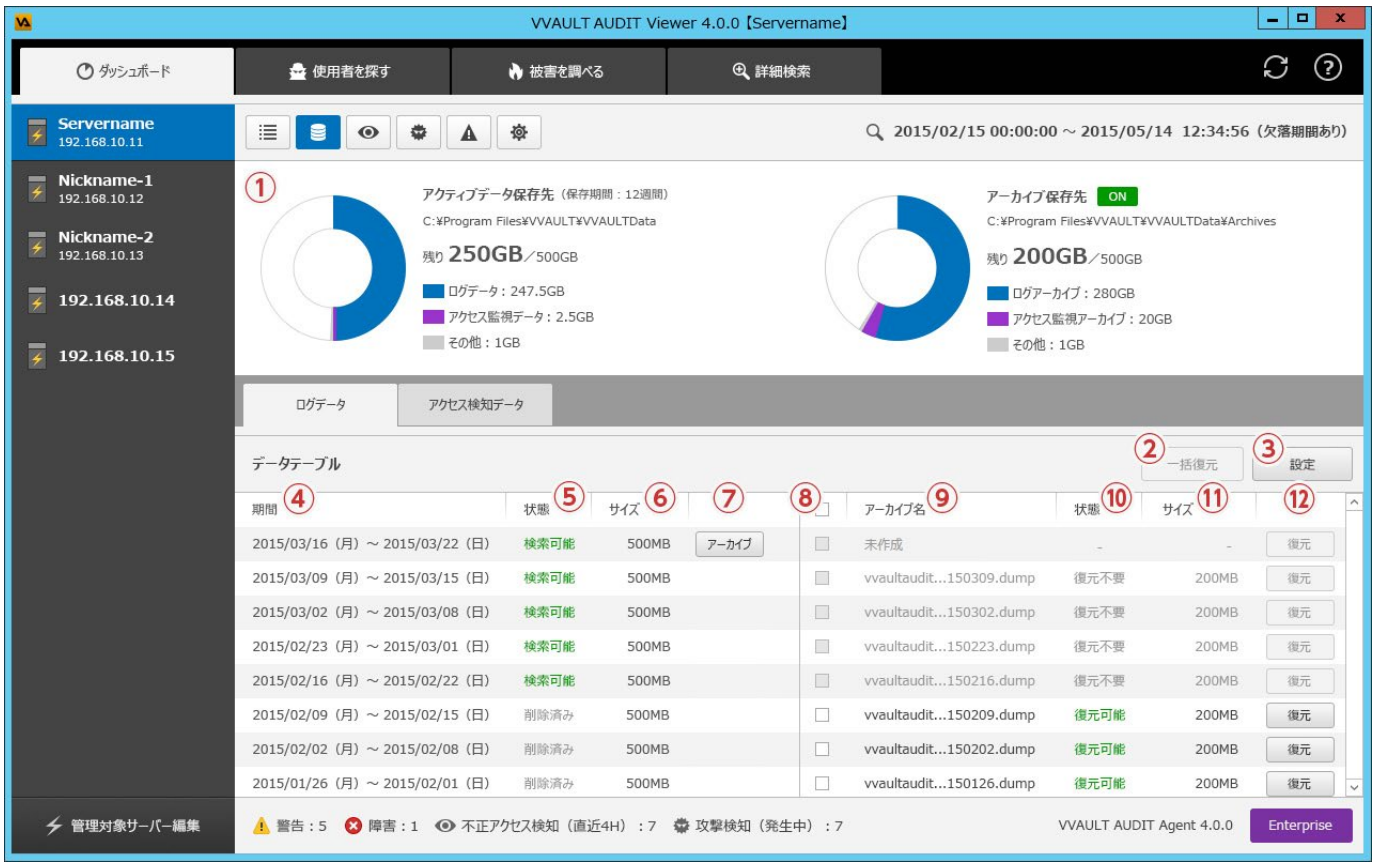
データベースおよびアーカイブの保存先を設計する際、目安値として参考にお考えください。

ユーザー数	種類	1週間の想定データ量	1年間（52週）の想定データ量
100	DBデータサイズ	21GB	1092GB
	アーカイブサイズ	360MB	18.6GB
1000	DBデータサイズ	210GB	10.8TB
	アーカイブサイズ	3.6GB	186GB

5-2
各部の名称と役割

データ管理画面は、VAビューアーの「ダッシュボードタブ ＞ データ管理アイコン」で表示されます。

データ管理画面



名称と役割

① 使用状況

アクティブデータ（DBデータ）保存先およびアーカイブ保存先のストレージ情報を表示します。
（アーカイブ保存先の表示は、アーカイブ保存先設定時のみ）

※「その他」は対象ストレージの使用領域から、VVAULT AUDITでの使用サイズを差し引いた値です。

② [一括復元]ボタン

チェックボックスで選択したデータテーブルの一括復元を実行します。

③ [設定]ボタン

ログデータ、アクセス検知データで共通のデータ管理設定ウィンドウを表示します。

データテーブル

④ 期間

保存されているログの期間を表示します。

⑤ 状態

以下のいずれかが表示されます。

[検索可能] ……データテーブルがDBデータ内に存在し、検索可能であることを示します。

[削除済み] ……データテーブルがDBデータから削除され、検索不可であることを示します。アーカイブを復元することで「検索［可能」な状態に戻すことができます。

[復元中／復元エラー] ……アーカイブ復元の実行状況を示します。

⑥ サイズ

DBデータ内で使用しているデータテーブルのサイズを表示します。

⑦［操作ボタン］

［削除］ボタン……復元済みのデータテーブルを削除し、「削除済み」の状態に戻します。アーカイブ作成中は実行できません。

［中止］ボタン……アーカイブの復元を中止します。

[アーカイブ] ボタン……データテーブルのアーカイブを作成します。すでにアーカイブされていたり、現在記録中のデータテーブルには実行できません。

⑧ チェックボックス

アーカイブを選択状態にします。

⑨ アーカイブ名

アーカイブ保存先に作成されたアーカイブファイル名を表示します。

⑩ サイズ

アーカイブファイルのサイズを表示します。

⑪ 状態

以下のいずれかが表示されます。

[復元不要] ……DBデータ内にすでにデータテーブルが存在していることを示します。

[復元可能] …DBデータ内にデータテーブルが存在せず、アーカイブが復元可能であることを示します。

[復元中／復元エラー] ……アーカイブ復元の実行状況を表します。

⑫［操作ボタン］

［復元］ボタン……アーカイブの復元を実行します。

設定ウィンドウ

名称と役割

DBデータ

① DBデータ保存先

設定されたDBデータ保存先パスを表示します。 ※変更できません

② DBデータ保存期間

DBデータに保存期間を指定します。 ※0を設定すると無期限となります。

③ データテーブル開始曜日

設定されデータテーブル開始曜日を表示します。 ※変更できません

④ DBへの登録処理

通常モード／低負荷モードから選択します。
低負荷モードは、DBへの登録処理を通常よりも遅延させることでファイルサーバーへの負荷を低減します。本製品インストール後、ファイルサーバーの動作が遅くなった場合は「低負荷モード」を指定してください。

アーカイブ

⑤ **アーカイブ**
アーカイブの有効／無効を設定します。

⑥ **ストレージの種類**
ローカルストレージ／ネットワークストレージからストレージの種別を指定します。

⑦ **アーカイブ保存先**
アーカイブの保存先を設定します。本製品をインストールしたマシンから、エクスプローラー等で利用可能なパスを指定してください。
ローカルストレージの例：E:¥VVAULT_AUDIT¥Archives
ネットーワークストレージの例：¥¥192.168.10.133¥VVAULT_AUDIT_ARC

⑧ **［認証設定］ボタン**
ネットワークストレージへの接続認証設定ウィンドウを表示します。
※ストレージの種類で「ネットワークストレージ」を選択した場合のみ表示されます。
※ユーザー IDに空欄が指定された場合、「Guest」が指定されたものとして処理を実行します。

⑨ **アーカイブ自動削除**
する／期間指定でする／しないからアーカイブを削除する条件を指定します。

CSV出力

⑩ **CSV出力**
CSV出力の有効／無効を設定します。

⑪ **ストレージの種類**
ローカルストレージ／ネットワークストレージからストレージの種別を指定します。

⑫ **CSV出力先**
CSV出力先を設定します。本製品をインストールしたマシンから、エクスプローラー等で利用可能なパスを指定してください。
ローカルストレージの例：E:¥VVAULT_AUDIT¥CSVOutput
ネットーワークストレージの例：¥¥192.168.10.133¥VVAULT_AUDIT_CSV

⑬ **［認証設定］ボタン**
ネットワークストレージへの接続認証設定ウィンドウを表示します。
※ストレージの種類で「ネットワークストレージ」を選択した場合のみ表示されます。

⑭ **ステータス**
CSV出力処理の状態を表示します。

⑮ **［手動実行］／［実行中止］ボタン**
CSV出力の手動実行または実行中止を行います。
※ここで出力されるCSVファイルは別アプリで処理されることを想定しているので、文字コードをBOMなしのUTF-8にしています。このため、エクセル等で読み込んだ場合、文字化けして表示されます。

定期ジョブ実行

⑯ **実行時刻**
定期ジョブの実行時刻を指定します。

⑰ **［決定］ボタン**
設定されている設定値を保存します。

⑱ **［キャンセル］ボタン**
設定値を保存せず、ウィンドウを閉じます。

6 統合管理

Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5

6-1 統合管理について 60

6-2 各部の名称と役割 61

6-3 管理対象サーバーの追加 64

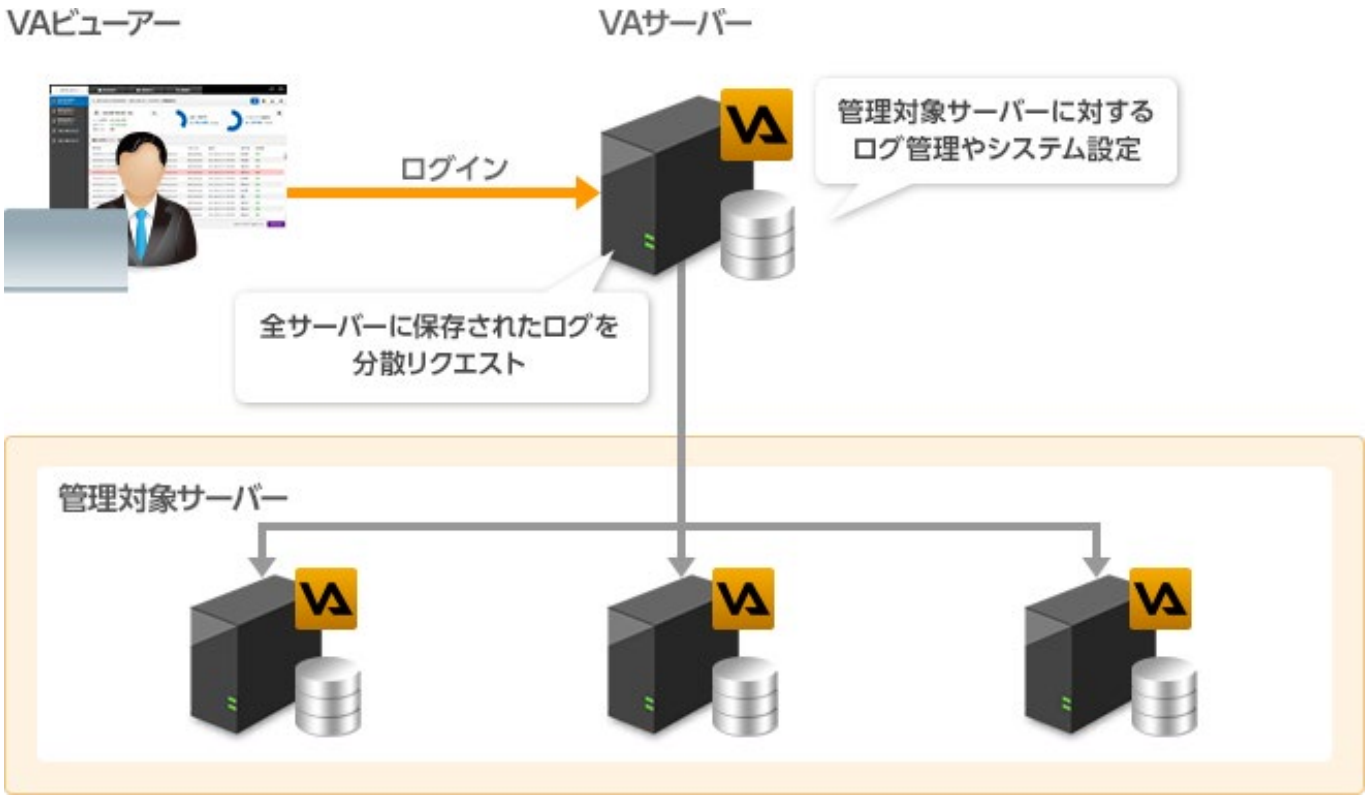
6-1
統合管理について

本製品をインストールしたファイルサーバー群を統合して管理することができます。ここではVVAULT AUDITの統合管理について説明します。

統合管理について

VVAULT AUDITの統合管理は、専用のサーバーを用意する必要がありません。
統合するファイルサーバーの1台にEnterpriseライセンスを登録して「VAサーバー」とし、管理対象のファイルサーバーを「管理対象サーバー」として追加していくだけで統合管理ができます。(詳細は「6-3 管理対象サーバーの追加（P.64)」をご参照ください)
ファイルサーバーを統合すると、複数のサーバーに保存されたログの横断検索が可能になります。本製品は、管理対象サーバーにリクエストを投げて負荷を分散させるため、大規模な統合管理にも対応しています。

※管理対象サーバーへのリクエストは全てSSL通信により暗号化されます。



6-2
各部の名称と役割

管理対象サーバー編集ウィンドウ

名称と役割

① プロキシサーバー［全てに使用する］ボタン
表示された全管理対象サーバーでプロキシサーバーの利用を有効化します。プロキシサーバー設定が有効でない場合、この操作は行えません。

② プロキシサーバー［全てに使用しない］ボタン
表示された全管理対象サーバーでプロキシサーバーの利用を無効化します。プロキシサーバー設定が有効でない場合、この項目は選択できません。

③ ニックネーム
管理対象サーバーについて任意の名称を入力します。

④ 接続先
管理対象サーバーのアドレスとポートを入力します。

⑤［認証設定］ボタン
認証設定ウィンドウを表示します。

⑥［接続テスト］ボタン
入力された内容で管理対象サーバーへ接続テストを行います。

⑦［削除］ボタン
対象の管理対象サーバーを削除します。

⑧［プロキシサーバーを使用する］チェックボックス
管理対象サーバーへの接続にプロキシサーバーを利用する際はチェックしてください。プロキシサーバー設定が有効でない場合、この操作は行えません。

⑨ **[プロキシサーバー設定] ボタン**

各管理対象サーバーへの接続にプロキシサーバーを利用する際の設定ウィンドウを表示します。プロキシサーバーの設定については「3-1 プロキシサーバー設定について（P.44）」を参照してください。

⑩ **[追加] ボタン**

新規管理対象サーバーの入力欄を１行目に挿入します。新規追加された未保存の行は背景色が黄色になります。

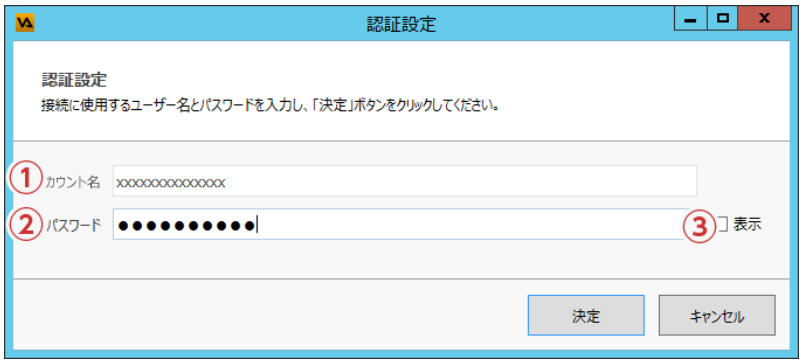
⑪ **[決定] ボタン**

入力されている設定値を保存します。

⑫ **[キャンセル] ボタン**

設定値を保存せず、ウィンドウを閉じます。

認証設定ウィンドウ



名称と役割

① アカウント名
管理対象サーバーへの接続に使用するアカウント名を入力する項目です。

② パスワード
管理対象サーバーへの接続に使用するパスワードを入力する項目です。

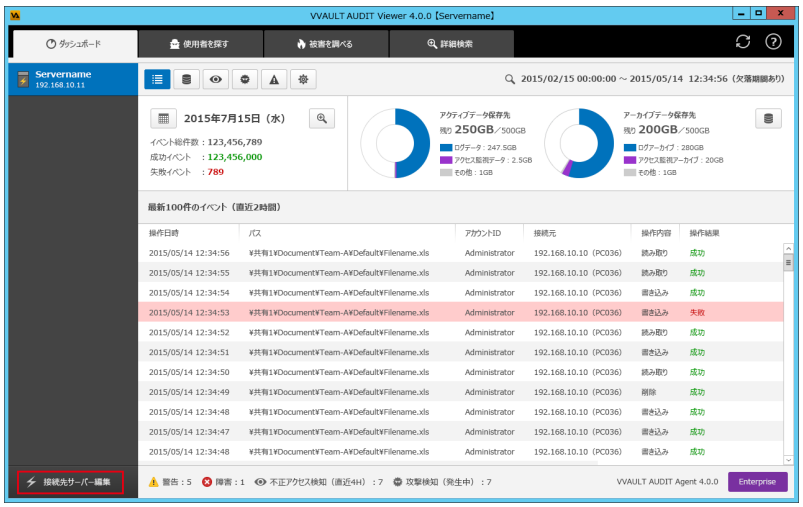
③ [表示] チェックボックス
パスワード欄に入力されている文字列を可視化します。

6-3
管理対象サーバーの追加

VAサーバーにて管理対象サーバーを追加する手順を説明します。

手順解説

① 「ダッシュボードタブ」＞「管理対象サーバー編集」ボタンをクリックします。



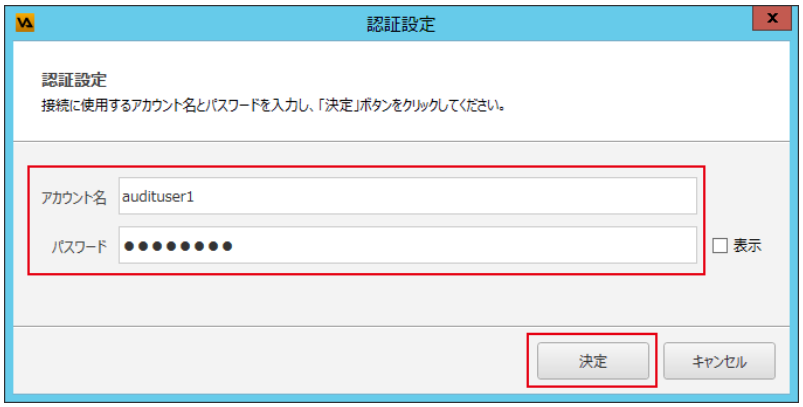
② ニックネーム、接続先を入力し、「認証設定」ボタンをクリックします。

ワンポイント

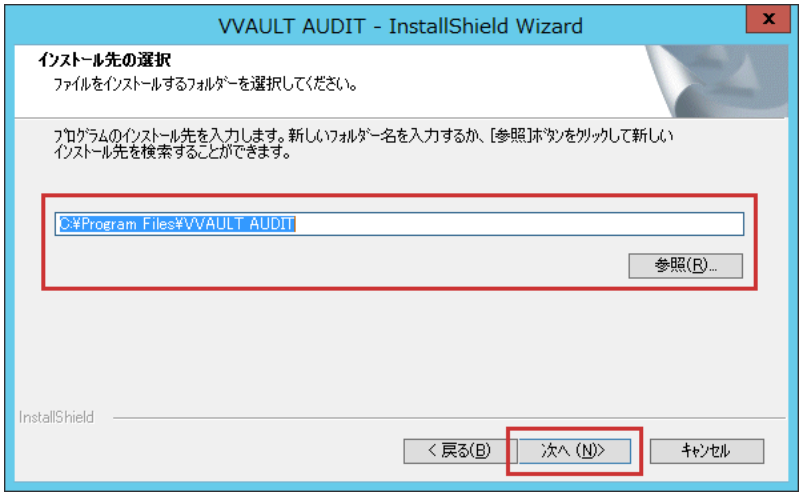
管理対象サーバーを追加するにはEnterpriseライセンスが必要です。

手順解説

③ アカウント名、パスワードを入力し、「決定」ボタンをクリックします。



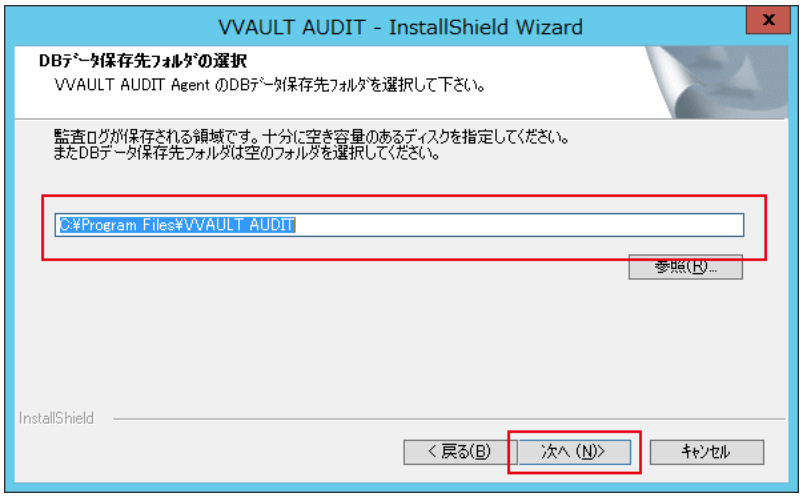
④「接続テスト」ボタンをクリックし、接続テストに成功することを確認します。



ワンポイント

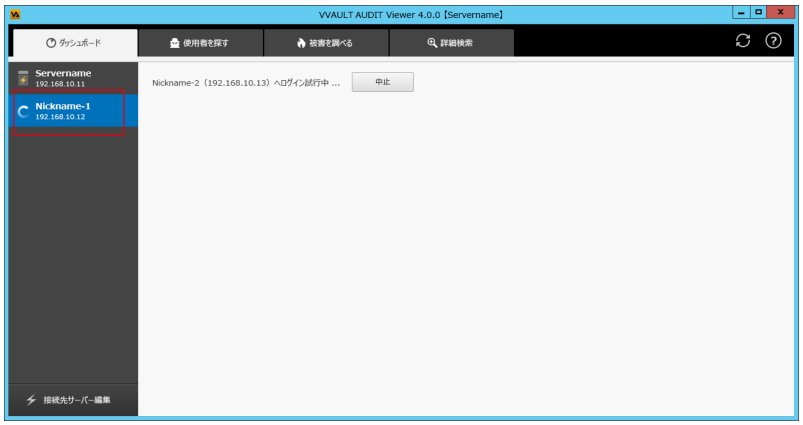
接続に成功しない場合、管理対象のサーバーにおいてローカルにインストールされたVAビューアーで接続可能なことを確認し、接続情報を確認してください。またファイアーウォール等の設定や、ネットワーク接続に問題ないかご確認ください。

⑤「決定」ボタンをクリックします。

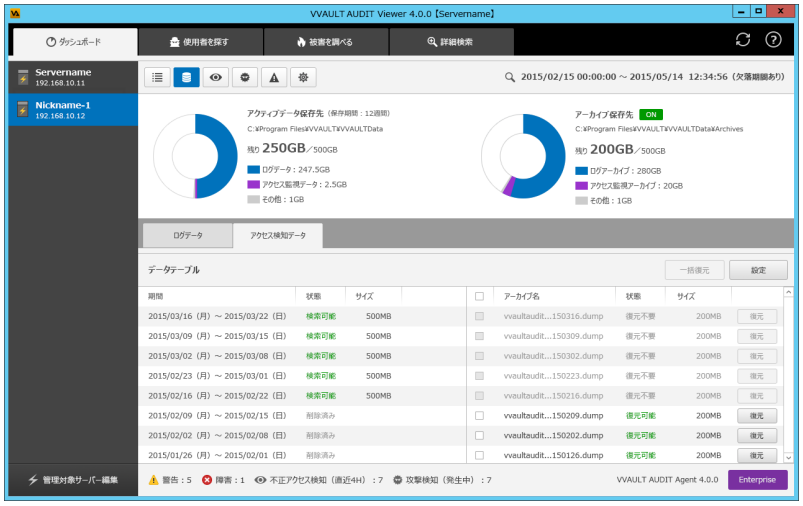


手順解説

⑥ ウィンドウが閉じ、サーバーリストにて接続中の状態になります。



⑦ 接続が完了します。



7 高度な設定

Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5

7-1 高度な設定について 68

7-2 各部の名称と役割 70

7-1
高度な設定について

高度な設定について

高度な設定ではシステムの挙動を変更するようなパラメータの変更などが行えます。
設定変更によってファイルサーバーの負荷があがったり、機能が正常に動作しなくなる場合がありますので、充分に注意して通常はサポートの指示に従って変更するようにしてください。

攻撃検知設定

攻撃検知条件を変更することができます。
誤検知が頻発する場合は、攻撃検知ルールの値を大きく、反対に検知されない場合は値を小さく設定してください。
また本機能によりファイルサーバーの負荷が上がる場合は、実行間隔の値を大きく設定してください。

攻撃検知後の自動ブロックについて

攻撃を検知した時点で、その接続元の「IPアドレス」をWindowsファイアウォール設定に追加し、接続元からのアクセスを遮断します。
（Windowsファイアウォールに追加される規則名は「 VVAULT AUDIT Attack Block IPアドレス」となります）

自動ブロックの除外について

任意のIPアドレスだけ自動ブロックから除外させることができます。バックアップ処理など、攻撃として検知したくない接続元がある場合はこちらに登録しておいてください。

一時ファイル保存先の設定

本製品はWindowsのイベントログを読み込んで一時ファイルを生成します。（一時ファイルがDBへ登録されると削除される）
インデックス破損などでDB登録に失敗する状況では、一時ファイルが蓄積し、システム領域を逼迫する場合があります。十分に空き領域のある保存先を設定してください。
なお、一時ファイル保存先変更時に、変更前の保存先に一時ファイルが残っている場合は、手動で削除せず、必ず製品が削除するまでお待ちください。ログデータが欠落する原因となります。

一時ファイル保存先を変更した後に変更前の保存先にアクセスできなくなった場合の注意

旧フォルダへのアクセスが、取り込み待ちの一時ファイルが残っていた状態で出来なくなった場合、取り込み処理が停止します。
処理を再開させるためには、以下のいずれかの対応を行う必要があります。

A）旧フォルダへのアクセスを回復させることができる

アクセスが回復すれば、数分後にAUDITの処理が実行されるようになります。

B）旧フォルダへのアクセスを回復させることができない

旧フォルダ並びにその中に存在した一時ファイルの復旧が不可能な状態です。
新フォルダ内のHistory.vesに対して以下の処理を行い、その後エージェントサービスを再起動してください。

・バージョン4.5.4以降

削除したい旧フォルダの次に設定されたフォルダ内のHistory.vesファイルを削除する。

・バージョン4.5.3以前

最新のフォルダ内のHistory.ves内に記載されているパスの一覧から、削除したいパスの行を消去して保存する。

インデックス管理について

ログデータの検索を高速に行うために、インデックスについて以下の管理を行えます。
・インデックスの種類の選択
・インデックスが不正になった場合の削除

ログ取り込み設定

本製品で取り扱うログのうち「その他」に分類されるログの取り込みを除外することで、データベースへの登録負荷やデータベースのサイズを軽減させることができます。取り込み対象となるログについては下記の表を参照してください。
・全ての操作ログを取り込む → ※1のログを取り込みます
・ファイルデータの操作並びにコンテンツの削除、プロパティの更新が含まれるログのみ取り込む → ※2のログを取り込みます
・ファイルデータの操作並びにコンテンツの削除が含まれるログのみ取り込む（※2） → ※3のログを取り込みます

コード	日本語表記	※1	※2	※3	VVAULT AUDITでの操作分類
1537	削除	●	●	●	削除
1538	セキュリティ情報の読み取り	●			その他
1539	アクセス権の変更	●	●		その他
1540	所有者の変更	●	●		その他
1541	同期	●			その他
1542	アクセス システム セキュリティ	●			その他
1801	許可元	●			その他
1802	拒否元	●			その他
1803	インテグリティポリシーのチェックで拒否されました	●			その他
1804	所有権によって許可されました	●			その他
1805	許可されていません	●			その他
4416	データの読み取り（またはフォルダー一覧の読み取り）	●	●	●	読み込み
4417	データの書き込み（またはファイルの追加）	●	●	●	書き込み
4418	データの追記（またはサブフォルダーの追加またはパイプインスタンスの作成）	●	●	●	書き込み
4419	拡張属性の読み取り	●			その他
4420	拡張属性の書き込み	●	●		その他
4421	実行/スキャン	●			その他
4422	子要素の削除	●			その他
4423	属性の読み取り	●			その他
4424	属性の書き込み	●	●		その他

なお、本設定は1アクセスに含まれる操作分類が、「その他」単独の場合にのみ適用されます。
実際の1アクセスには複数の操作分類が含まれることがあり、この場合には「その他」に分類されるアクセスもこの設定に関係なく全て記録されます。

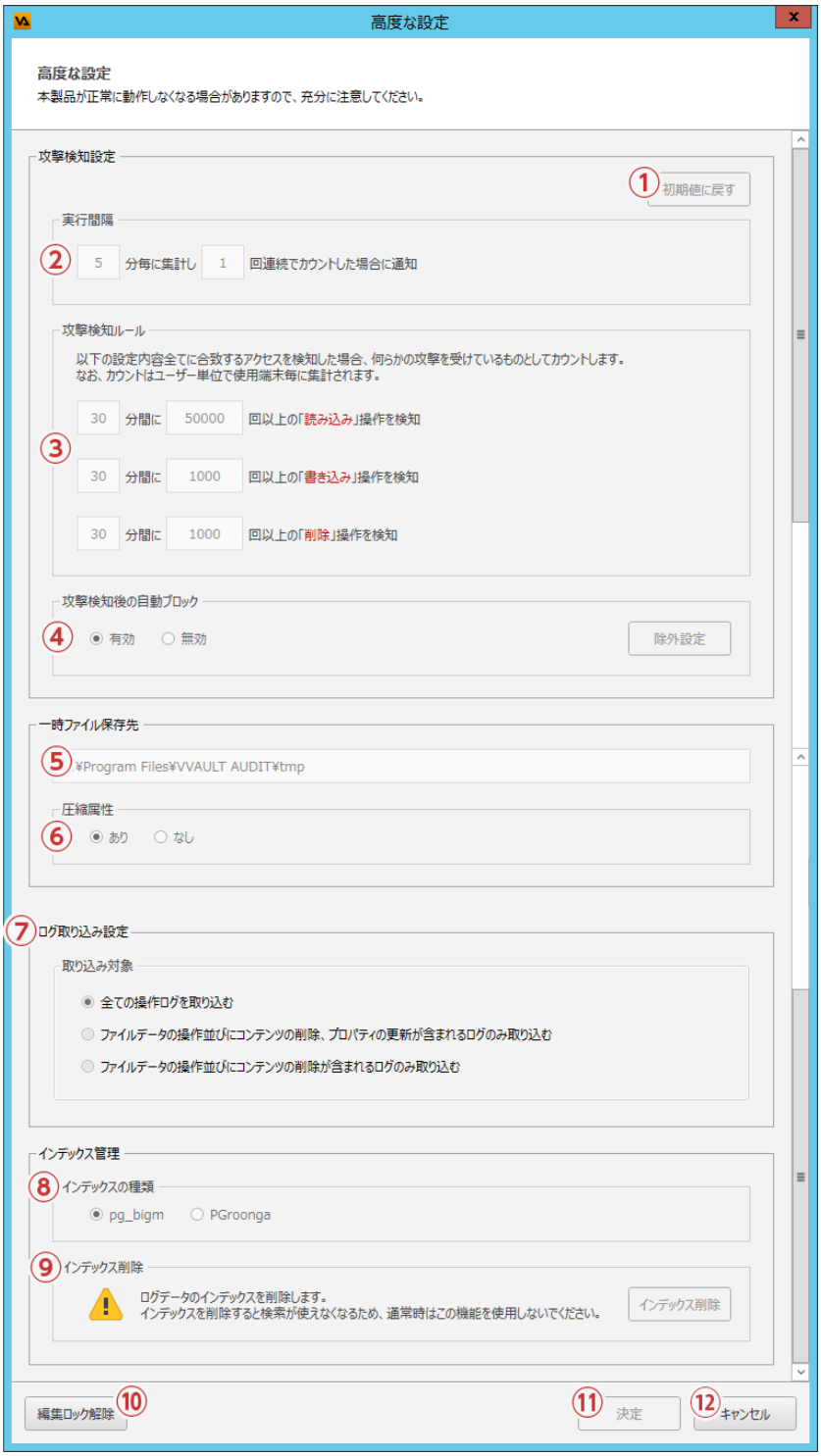
7-2
各部の名称と役割

高度な設定画面

名称と役割

① [高度な設定] ボタン
高度な設定ウィンドウを表示します。

高度な設定ウィンドウ



名称と役割

① [初期値に戻す] ボタン

設定値をインストール時点の初期値に戻します。

② 実行間隔

検知ジョブの実行間隔、および通知する条件を指定する項目です。

③ 攻撃検知ルール

ファイルサーバーへの攻撃として検知する条件を入力する項目です。

※AND 条件となります

④ 攻撃検知後の自動ブロック

攻撃を検知した際に、その接続元からのアクセスを自動ブロック 有効／無効状態を設定する項目です。
除外設定より、特定の接続元を自動ブロックから除外させることができます。

⑤ 一時ファイル保存先

一時ファイルの保存先を設定します。

⑥ 圧縮属性

一時ファイル保存先の圧縮属性を設定します。

⑦ 取り込み設定

操作内容が「その他」のみで記録されるログの取り扱いについて設定します。
各項目で取り込むログについては「 高度な設定について」に記載された表をご参照ください。

⑧ インデックスの種類

インデックスの種類を選択できます。pg_bigmは、バージョン4.1.4で新たに追加したインデックス種類です。PGroongaは、以前のバージョンから使用しているインデックス種類です。
インデックスの種類を変更後、[決定]ボタンをクリックするとインデックスの削除が行われますので、以下の「インデックス削除」に記載の注意事項を確認のうえ実行するようにしてください。

⑨ インデックス削除

ログデータのインデックスが不正となった場合にこの機能を利用します。
下記に十分注意したうえで実行するようにしてください。
【注意事項】
・削除を実行するとVAビューアーから強制ログアウトします。
・削除中はVAビューアーにログインできません。
・削除後はログデータのインデックスを作成するまで検索できませんので、インデックスを再作成してください。

⑩ [編集ロック解除] ボタン

各項目を編集可能な状態にします。

⑪ [決定] ボタン

入力された設定値を保存します。

⑫ [キャンセル] ボタン

入力値を保存せず、ウィンドウを閉じます。

攻撃検知後の自動ブロック除外設定ウィンドウ

名称と役割

① [有効] チェックボックス
除外設定の有効／無効を設定する項目です。

② IPアドレス
除外したい接続元のIPアドレスを入力する項目です。

③ [削除] ボタン
対象の除外設定を削除します。

④ [追加] ボタン
除外設定の入力欄を1行目に挿入します。新規追加された未保存の行は背景色が黄色になります。

⑤ [決定] ボタン
入力されている設定値を保存します。

⑥ [キャンセル] ボタン
設定値を保存せず、ウィンドウを閉じます。

Soliton®
株式会社ソリトンシステムズ
https://www.soliton.co.jp/

Install Manual for VVAULT AUDIT 4.5 VAINS-240508